

農福連携 事例集

(ver.1)



令和元年10月
農林水産省

掲載事例一覧

全国
45か所

北海道地域
5か所

北陸地域
6か所

東北地域
5か所

近畿地域
5か所

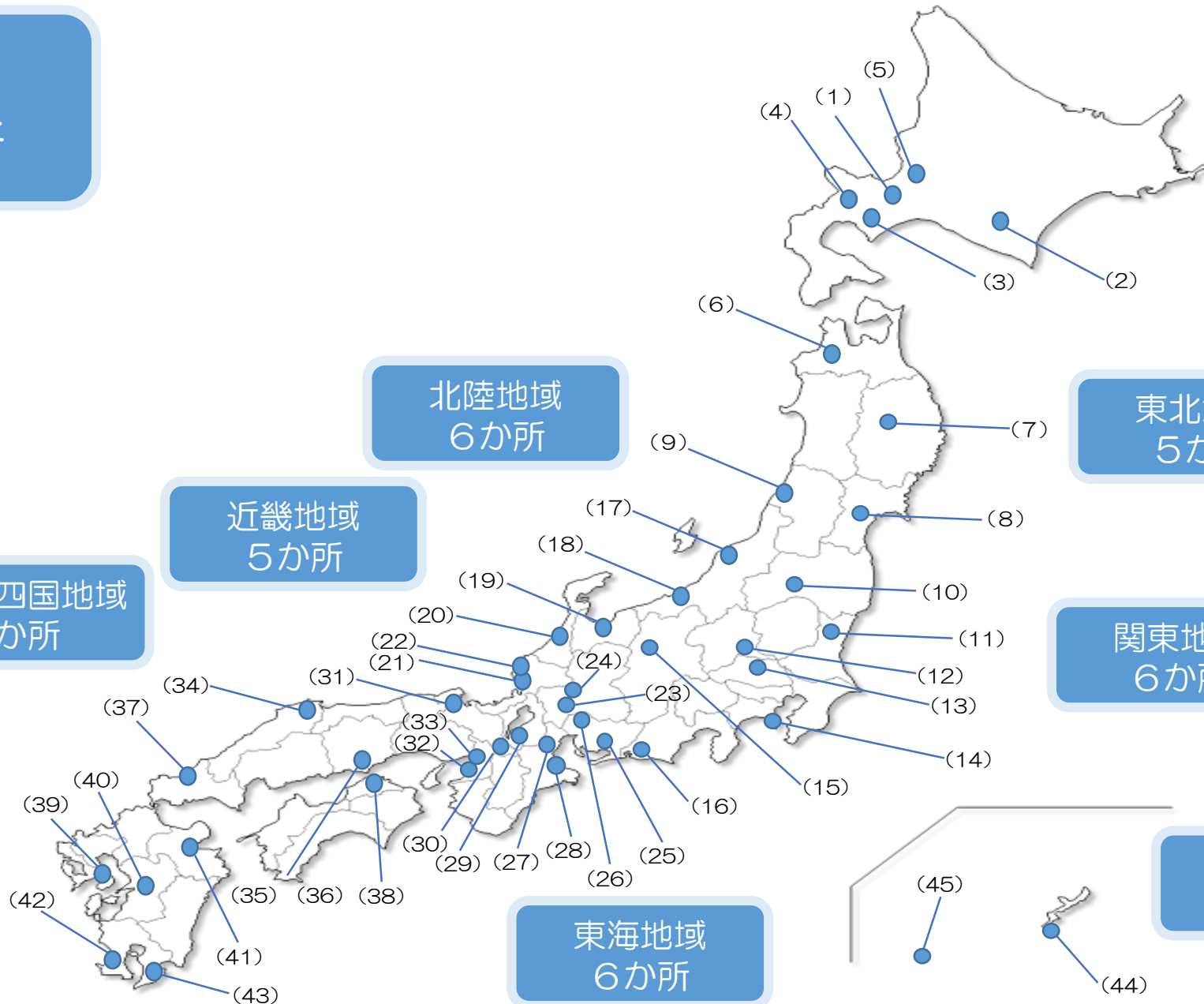
中国・四国地域
5か所

関東地域
6か所

九州地域
5か所

東海地域
6か所

沖縄地域
2か所



*全体について

(問い合わせ先：農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課 高齢者対策班 ☎：03-3502-0033)

1. 北海道地域

(問い合わせ先：北海道農政事務所 企画調整室 ☎：011-330-8801)

- (1) 合同会社 竹内農園【北海道北広島市】 p8
取組パターン：③連携型（うち農業側の取組）
- (2) 株式会社 九神ファームめむろ【北海道芽室町】 p9
取組パターン：②福祉完結型
- (3) 合同会社 農場たつかーむ / 合同会社 自然農業社【北海道壮瞥町】 p10
取組パターン：④グループ内連携型（農業側から参入）
- (4) 特定非営利活動法人 どリーむ・わーくす【北海道余市町】 p11
取組パターン：③連携型（うち農業側の取組）、④グループ内連携型（農業側から参入）
- (5) 特定非営利活動法人 サトニクラス【北海道月形町】 p12
取組パターン：③連携型（うち福祉側の取組）、④グループ内連携型（農業側から参入）

2. 東北地域

(問い合わせ先：東北農政局 農村振興部 農村計画課 ☎：022-263-1111)

- (6) 社会福祉法人 七峰会【青森県弘前市】 p13
取組パターン：③連携型（うち福祉側の取組）
- (7) 社会福祉法人 岩手更生会【岩手県盛岡市】 p14
取組パターン：②福祉完結型、③連携型（うち福祉側の取組）
- (8) 株式会社 大滝自然農園【宮城県仙台市】 p15
取組パターン：④グループ内連携型（農業側から参入）
- (9) 社会福祉法人 月山福祉会【山形県鶴岡市】 p16
取組パターン：②福祉完結型
- (10) 社会福祉法人 こころん【福島県泉崎村】 p17
取組パターン：②福祉完結型、③連携型（うち福祉側の取組）

3. 関東地域

(問い合わせ先：関東農政局 農村振興部 農村計画課 ☎：048-600-0600)

(11) 医療法人 直志会【茨城県大子町】

取組パターン：②福祉完結型

p18

(12) パナソニックハートファームアソシエイツ株式会社 群馬事業所【群馬県大泉町】

取組パターン：①直接就労型

p19

(13) 埼玉福興 株式会社【埼玉県熊谷市】

取組パターン：④グループ内連携型（福祉側から参入）

p20

(14) パーソルサンクス株式会社 よこすか・みうら岬工房【神奈川県横須賀市】

取組パターン：③連携型（うち福祉側の取組）

p21

(15) 松本ハイランド 農業協同組合【長野県松本市】

取組パターン：中間支援の取組

p22

(16) 京丸園 株式会社【静岡県浜松市】

取組パターン：①直接就労型、③連携型（うち農業側の取組）

p23

4. 北陸地域

(問い合わせ先：北陸農政局 農村振興部 農村計画課 ☎：076-263-2161)

(17) 株式会社 たくみファーム【新潟県新潟市】

取組パターン：①直接就労型、④グループ内連携型（両側から参入）

p24

(18) 一般社団法人 土の香工房【新潟県上越市】

取組パターン：②福祉完結型

p25

(19) 社会福祉法人 フォーレストハ尾会【富山県富山市】

取組パターン：②福祉完結型

p26

(20) 株式会社 愛昂【石川県津幡町】

取組パターン：②福祉完結型、③連携型（うち福祉側の取組）

p27

(21) 特定非営利活動法人 こころ【福井県福井市】

取組パターン：②福祉完結型

p28

(22) 特定非営利活動法人 ピアファーム【福井県あわら市】

取組パターン：②福祉完結型

p29

5. 東海地域

(問い合わせ先：東海農政局 農村振興部 農村計画課 ☎：052-201-7271)

- (23) 一般社団法人 岐阜県農畜産公社「ぎふアグリチャレンジ支援センター」【岐阜県岐阜市】 p30
- 取組パターン： 中間支援の取組
- (24) 株式会社 DAI【岐阜県関市】 p31
- 取組パターン： ②福祉完結型、③連携型（うち福祉側の取組）
- (25) 社会福祉法人 無門福祉会【愛知県豊田市】 p32
- 取組パターン： ②福祉完結型、③連携型（うち福祉側の取組）
- (26) 有限会社 H&Lプランテーション【愛知県春日井市】 p33
- 取組パターン： ①直接就労型
- (27) 一般社団法人 三重県障がい者就農促進協議会【三重県津市】 p34
- 取組パターン： 中間支援の取組
- (28) 社会福祉法人 まつさか福祉会【三重県松阪市】 p35
- 取組パターン： ②福祉完結型

6. 近畿地域

(問い合わせ先：近畿農政局 農村振興部 農村計画課 ☎：075-451-9161)

- (29) 特定非営利活動法人 縁活【滋賀県栗東市】 p36
- 取組パターン： ②福祉完結型
- (30) 社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会【京都府京田辺市】 p37
- 取組パターン： ②福祉完結型
- (31) 社会福祉法人 よさのうみ福祉会【京都府与謝野町】 p38
- 取組パターン： ②福祉完結型、③連携型（うち福祉側の取組）
- (32) ハートランド 株式会社【大阪府泉南市】 p39
- 取組パターン： ①直接就労型、③連携型（うち農業側の取組）
- (33) 株式会社 いずみエコロジーファーム【大阪府和泉市】 p40
- 取組パターン： ④グループ内連携型（農業側から参入）

7. 中国・四国地域

(問い合わせ先：中国四国農政局 農村振興部 農村計画課 ☎：086-224-4511)

- (34) 特定非営利活動法人 島根県障がい者就労事業振興センター【島根県松江市】 p41
- 取組パターン： 中間支援の取組
- (35) 有限会社 岡山県農商【岡山県岡山市】 p42
- 取組パターン： ④グループ内連携型（農業側から参入）
- (36) 株式会社 おおもり農園【岡山県岡山市】 p43
- 取組パターン： ④グループ内連携型（農業側から参入）
- (37) 社会福祉法人 E.G.F【山口県萩市】 p44
- 取組パターン： ②福祉完結型、③連携型（うち福祉側の取組）
- (38) 特例非営利活動法人 香川県社会就労センター協議会【香川県高松市】 p45
- 取組パターン： 中間支援の取組

8. 九州地域

(問い合わせ先：九州農政局 農村振興部 農村計画課 ☎：096-211-9111)

- (39) 社会福祉法人 南高愛隣会【長崎県雲仙市】 p46
- 取組パターン： ②福祉完結型、③連携型（うち福祉側の取組）
- (40) 株式会社 なかせ農園【熊本県大津町】 p47
- 取組パターン： ①直接就労型、③連携型（うち農業側の取組）
- (41) 大分県障害福祉サービス事業所等共同受注センター 農園芸部会【大分県別府市】 p48
- 取組パターン： 中間支援の取組
- (42) 株式会社 南風ベジファーム【鹿児島県南さつま市】 p49
- 取組パターン： ④グループ内連携型（農業側から参入）
- (43) 社会福祉法人 白鳩会【鹿児島県南大隅町】 p50
- 取組パターン： ④グループ内連携型（福祉側から参入）

9. 沖縄地域

(問い合わせ先：沖縄総合事務局 農林水産部 農村振興課 ☎：098-866-0031)

- (44) 株式会社 みやぎ農園【沖縄県南城市】 p51
- 取組パターン： ③連携型（うち農業側の取組）
- (45) 社会福祉法人 みやこ福祉会【沖縄県宮古島市】 p52
- 取組パターン： ②福祉完結型

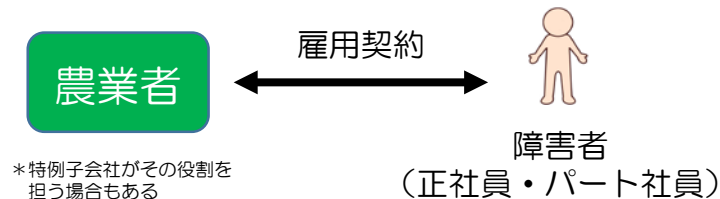
取組パターンの解説

- 農福連携の取組は、（１）実際に障害者とともに農作業を行う「**実践行為**」と、（２）実践行為を行う農業者や障害福祉サービス事業所を外側から支える「**中間支援の取組**」に分類することができます。
- 実践行為については、①農業者が障害者を直接雇用する「**直接就労型**」、②障害福祉サービス事業所が単独で農業を行う「**福祉完結型**」③農業者と外部の障害福祉サービス事業所が、農作業に関する請負契約を締結し、施設利用者（障害者）と職業指導員が農業者の圃場に通う「**連携型**」、④農業者が、障害福祉サービス事業所の運営法人となる社会福祉法人・NPO法人等を設立したり、社会福祉法人・NPO法人等が農業法人を設立する「**グループ内連携型**」の４つに分類することができます。
- 障害福祉サービス事業所が敷地内で農作業を行いつつ、外部の農業者の圃場にも通うなど、複数パターンを実施する場合があります。



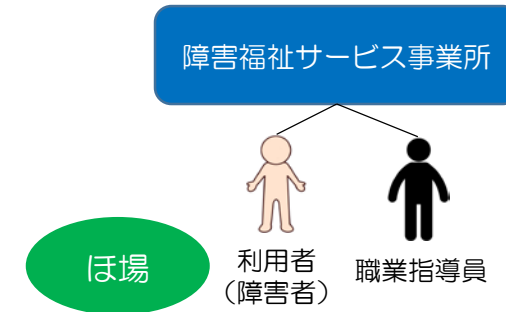
①直接就労型

農業者が障害者を正社員やパート社員として直接雇用するパターン。



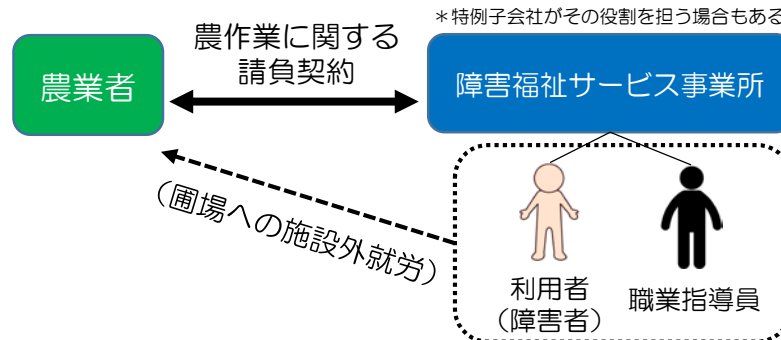
②福祉完結型

障害福祉サービス事業所が単独で農業を行うパターン。



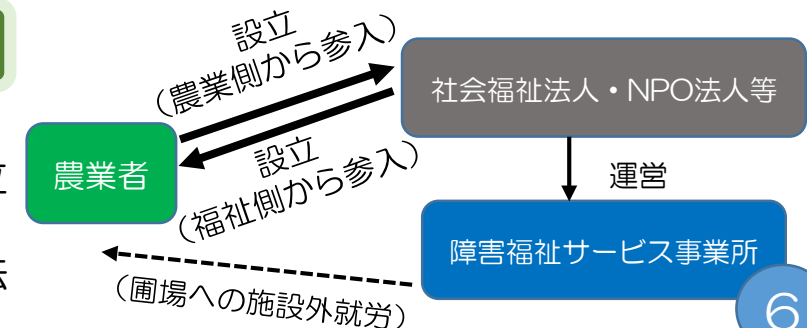
③連携型

農業者と外部の障害福祉サービス事業所が、農作業に関する請負契約を締結するパターン。



④グループ内連携型

農業者が社会福祉法人・NPO法人等を設立したり、社会福祉法人やNPO法人等が農業法人を設立するパターン。



事例の読み方

(1) 通し番号

掲載した45事例に、北から順に通し番号を振っています。

(2) タイトル

取組の特徴に即してタイトルを付けています。

(3) 取組パターン

p 6の分類に従い、取組パターンを記載しています。**なお、複数のパターンに該当する場合、メインとなるものを記載しています。**

(4) 取組主体

取組主体名を記載しています。なお、一般に、障害福祉サービス事業所による取組と見られる場合には、その運営法人と事業所名を併記しています。また、障害福祉サービス事業所が多機能型事業所である場合、() 内に代表的なサービスを記載しています。

1

簡易な設備と確かな技術により通年で手作業を創出

〔合同会社 竹内農園〕（北海道北広島市）

WEBサイト：<http://takenouen.ohitashi.com/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 北海道北広島市にある合同会社竹内農園は、市内の就労継続支援B型事業所など2か所から、精神・知的障害を持つ利用者を中心とした10名を施設外就労として受け入れ、野菜生産を行う。
- 平成26年度取組開始以来、15種類の多品目の野菜を順次栽培しており、大がかりな機械化をせず、手作業を中心とした障害者の作業を創出している。
- メディアへの登場も多いほか、平成30年8月には天皇・皇后両陛下（当時）が訪問されるなど、北海道で農福連携に興味を持つ方々にとって象徴的存在となっている。

取組の内容

- ◆ 農地約4haでコマツナ、中玉トマト、スイートコーン等の野菜15種類を栽培。
- ◆ 障害者は、定植や収穫などの畑作業を行うほか、収穫物の袋詰め作業の95%程度を担っている。
- ◆ 大がかりな播種機や定植機を用いず、障害者のための作業として、手作業を中心とした播種・定植作業を創出。
- ◆ 社会福祉士の資格を持つ妻と協力し、夫婦で農場を運営。
- ◆ 自治体や農政事務所主催の視察を積極的に受入れてきたほか、シンポジウムへの登壇も多数。

取組の効果

- ◆ 多品目を栽培し、年間200日の出荷を実現。
- ◆ 手作業を多くすることで、多数の障害者を受け入れるとともに、機械の固定費を安くして、利益幅を確保。また、環境に配慮し、平成27年にエコファーマー認定取得。
- ◆ 水耕栽培等の高額な施設を導入しないことで、安定的な経営を実践。
- ◆ 自らの知名度が高まることで、地域の農業者から相談を受け、自ら事業所とのマッチング役となっている。

農作業の様子



ハウスでの野菜栽培



出荷作業の様子



(6) WEBサイト

取組のWEBサイトを記載しています。クリックすると当該サイトにリンクします。

(9) リード文

取組の概要とポイントを記載しています。記載内容は、令和元年8月時点のものです。

(10) 取組の内容

取組の内容を記載しています。記載内容は、令和元年8月時点のものです。

(12) 写真

取組の写真を掲載しています。無断転載を禁止いたします。写真を利用したい場合、p 2～p 5に記載した各地方農政局等にお問い合わせください。

(5) 所在地

取組主体が所在する都道府県及び市町村名を記載しています。

(7) 視察受入れ可否

一般の方による視察受入れの可否を記載しています。「可」と記載していても、農作業の繁忙期には視察をお控えいただく場合や、事前申込や料金が必要な場合がありますこと、ご注意ください。

(8) 報道機関受入れ可否

報道機関による取材の受入れ可否を記載しています。撮影にあたっては、障害者への配慮が必要な場合がありますこと、ご注意ください。

(11) 取組の効果

取組の効果を記載しています。記載内容は、令和元年8月時点のものです。

8

7

- 北海道北広島市にある合同会社竹内農園は、市内の就労継続支援B型事業所など2か所から、精神・知的障害を持つ利用者を中心とした10名を施設外就労として受け入れ、野菜生産を行う。
- 平成26年度の実組開始以来、15種類の多品目の野菜を順次栽培しており、大がかりな機械化をせず、手作業を中心とした障害者の作業を創出している。
- メディアへの登場も多いほか、平成30年8月には天皇・皇后両陛下（当時）が訪問されるなど、北海道で農福連携に興味を持つ方々にとって象徴的存在となっている。

取組の内容

- ◆ 農地約4haでコマツナ、中玉トマト、スイートコーン等の野菜15種類を栽培。
- ◆ 障害者は、定植や収穫などの畑作業を行うほか、収穫物の袋詰め作業の95%程度を担っている。
- ◆ 大がかりな播種機や定植機を用いず、障害者のための作業として、手作業を中心とした播種・定植作業を創出。
- ◆ 社会福祉士の資格を持つ妻と協力し、夫婦で農場を運営。
- ◆ 自治体や農政事務所主催の視察を積極的に受入れてきたほか、シンポジウムへの登壇も多数。

農作業の様子



ハウスでの野菜栽培



取組の効果

- ◆ 多品目を栽培し、年間200日の出荷を実現。
- ◆ 手作業を多くすることで、多数の障害者を受け入れるとともに、機械の固定費を安くして、利益幅を確保。また、環境に配慮し、平成27年にエコファーマー認定取得。
- ◆ 水耕栽培等の高額な施設を導入しないことで、安定的な経営を実践。
- ◆ 自らの知名度が高まることで、地域の農業者から相談を受け、自ら事業所とのマッチング役となっている。

出荷作業の様子



十勝ブランドの活用と出資企業による買い取りで高い工賃を実現

②福祉完結型

〔運営主体：株式会社 九神ファームめむろ〕〔事業所：就労継続支援A型事業所「九神ファームめむろ」〕（北海道芽室町）

WEBサイト：<http://kyujinfarm-memuro.co.jp/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 北海道芽室町にある「九神ファームめむろ」は、株式会社九神ファームめむろによって運営される就労継続支援A型事業所。平成25年度から、知的・精神障害を持つ約20名の利用者により、通年で、野菜生産及びジャガイモ等の一次加工を行う。
- 町内に障害者の就労場所が不足していたため、町は、障害者雇用の実績がある民間企業に障害者就労のコーディネートに依頼。官民一体の就労参画プロジェクト「プロジェクトめむろ」を発足させた。
- 一次加工したジャガイモの全量を出資企業が買い取ることで、高い賃金を安定的に実現。

取組の内容

- ◆ 借用する農地約4haにおいて、障害者はジャガイモ等の定植から収穫までの一連の農作業に従事。
- ◆ 平成27年度に稼働した新加工場では、ジャガイモの皮むき・カット・真空パック詰め等に加え、ゴボウや長いもなど、加工作業を拡大。
- ◆ 出資企業である惣菜店が、一次加工したジャガイモの全量を買収することにより、安定した収益を確保。
- ◆ JAめむろからは、農作業指導を受けるほか、収穫量が不足する場合は、ジャガイモを提供してもらうなど、協力体制を構築。
- ◆ 平成27年度「都市農村共生・対流総合対策交付金」を活用して、町内に開店したコミュニティレストランでは、九神ファームめむろで収穫した野菜を用いており、障害者が調理や接客を行っている。
- ◆ 町内の宿泊施設と共同で特別支援学校の修学旅行を誘致し、生徒に農業体験の場を提供。

取組の効果

- ◆ 平均約10万円/月を超える高い賃金を実現。
- ◆ 本プロジェクトによって、町内に多くの障害者の就労先が創出された。
- ◆ 地元の離農した農業者に、農業サポーターとして農作業の指導を行ってもらうことで、高齢者の生きがいとなる場所が生まれた。
- ◆ 利用者は、働くことや安定的な賃金を得ることを通じて成長し、更なるキャリアアップを実現。
役場、JA、食品販売店などでの一般就労に移行した者も多数。

農作業の様子



加工場での作業



コミュニティレストラン



- 北海道壮瞥町にある「合同会社 農場たつかーむ」及び「合同会社 自然農業社」は、福祉経験を有する農業者夫婦によって設立された農業法人。平成19年以降、順次、障害福祉サービス事業所としての指定を受ける。現在は、知的・精神障害を有する約50名の利用者が、養鶏、野菜生産及び農産物加工販売を通年で行っている。
- 昭和62年に新規就農して以降、町内で規模拡大を続けるとともに、平成21年に認定農業者となる。
- 有機栽培と平飼い養鶏によって、生産物のブランド化に成功。ここ数年、利用者の平均賃金は、北海道内の農作業に取り組む障害福祉サービス事業所でトップクラス。

取組の内容

- ◆ 合計約500坪の鶏舎12棟で、約3,000羽の平飼い養鶏を実施。また、農地約11haにおいて、鶏糞を堆肥に利用して、ズッキーニやニンニクなどの野菜の有機栽培を実施。
- ◆ 障害者は、養鶏については、給餌、卵集め・洗卵、鶏舎清掃等に従事。また、野菜栽培については、播種、肥料散布、草取り、収穫物の計量・袋詰め等に従事。
- ◆ ダイズを無添加味噌やドライパックに加工するほか、熟成黒ニンニクの製造、切り干し大根作り、鶏卵を用いた菓子の製造販売などで、冬期間の作業を創出。
- ◆ 平成16年には、NPO法人を設立し、通所出来ない障害者のためのグループホーム事業を開始。
- ◆ 平成26年にカフェをオープンし、生産した鶏卵や野菜を食材として使用。

取組の効果

- ◆ 平成13年、農産物の有機JAS認証を取得。付加価値の高い農畜産物や加工品の販売を行うことで、平成29年度の平均月額賃金は、たつかーむのA型が約12万円、自然農業社が約9万円と、北海道内の事業所でトップクラスを実現。
- ◆ 一つの運営法人が、およそ30年間もの長い年月をかけて、障害者の生活に必要な多くの施設と、確かな農業技術による経済活動の基盤を築き上げてきたことで、障害者が、町内で生活していける場を提供する役割を担っている。

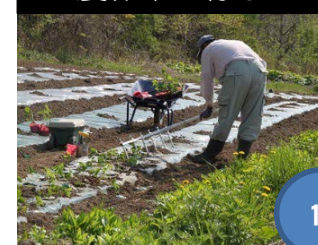
平飼い養鶏の様子



平飼い有精卵



農作業の様子



報道機関受入れ：可

- 11

〔運営主体：特定非営利活動法人 サトニクラス〕〔事業所：就労継続支援A型事業所「サトニクラス酵母」〕（北海道月形町）

WEBサイト：<https://www.satoniclass.com/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 北海道月形町にある「サトニクラス酵母」は、NPO法人サトニクラスが運営する就労継続支援A型事業所。町内の社会福祉法人の理事経験がある農業者が、障害者や生活困窮者の支援を目的として平成26年に設立した。現在、知的・精神・身体障害を持つ利用者10名が、野菜生産や漬物製造等を通年で行っている。
- 野菜生産から漬物製造・販売までを一貫して行うことで、通年作業を安定的に創出。
- 農林水産省の交付金を活用し、乾燥野菜の開発、農業者が必要とする労働力の調査、障害福祉の知見を有する農作業指導者の育成など、農福連携の取組をより拡大する努力を継続。

取組の内容

- ◆ 約1haの農地でナス、キュウリ、ダイコン、メロンなどの野菜を生産するほか、設立者を含む月形町内の農家6戸に施設外就労し、水田の除草や野菜の収穫等に従事。また、事業所内の加工場で漬物と乾燥野菜を製造。
- ◆ 町内のJAからミニトマト出荷用の箱折り作業を受託（平成30年度は約78,000ケースを出荷）。
- ◆ 職業指導員の見立てにより、障害特性に応じて2～3人一組のチームを編成。また、漬物製造工程を「取り出し・計量・真空パック詰め・ラベル貼り」に細分化し、利用者を割当て。
- ◆ 平成27年度「都市農村共生・対流総合対策交付金」を活用し、乾燥野菜の開発や農家が必要とする労働力の調査を実施。また、平成29年度「農山漁村振興交付金」を活用し、地域協議会の事務局として農作業指導者の育成等の事業を実施。

取組の効果

- ◆ チーム作業により、収穫に適した野菜の見落としが防止されるとともに、肥料散布等の正確性が向上。このことにより、職員による事後確認ややり直し作業が減少。
- ◆ 漬物製造工程の細分化により、生産性が向上。製造量は、開始当初の200パックから2,000パック（平成30年度）へと約10倍に増加。
- ◆ 交付金事業を実施することで、町内で農福連携に取り組もうとする農業者が増加。

農作業の様子



漬物の製造



出荷箱折り作業



障害者が日本一のリンゴ生産を支える担い手に

③連携型（うち福祉側の取組）

（青森県弘前市）

〔運営主体：社会福祉法人 七峰会〕

〔事業所：多機能型事業所（就労継続支援B型ほか）「就労サポートひろさき」〕

WEBサイト：<http://www.takushinkan.jp/1137.html>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 青森県弘前市にある「就労サポートひろさき」は、社会福祉法人七峰会によって運営される多機能型事業所。平成19年の開設以来、現在は、知的障害などを持つ施設利用者4名が、主にリンゴ生産法人への施設外就労により、リンゴの栽培作業等を通年で行っている。
- 市内のリンゴ生産法人に実習生として通った利用者が、その働きぶりを認められ、平成26年及び27年に直接雇用された例もあるなど、生産者が高齢化する中で、日本一のリンゴ生産を支える担い手として期待されている。

取組の内容

- ◆ リンゴの取扱数量が全国一位である青果グループが平成27年に設立した「弘果りんご園（株）」等から作業を受託。また、障害者就業・生活支援センターの紹介により、ピーマン等の生産者1カ所からも作業を受託。
- ◆ 障害者は、葉摘みや収穫した果実の運搬作業のほか、比較的難度の高い一次摘果作業も実施。
- ◆ 冬季には、収穫用コンテナの洗浄や予冷库に保存しているリンゴの箱詰作業等を実施。
- ◆ 弘果りんご園（株）の作業員から技術指導を受けるほか、障害者が市内のリンゴ生産法人に実習生として通うことで、技術を向上させている。

取組の効果

- ◆ 人手不足により、保存性の高い有袋リンゴの生産量が下がっており、周年出荷ができなくなる恐れがある。また、リンゴ箱の運搬等の作業は、高齢化したリンゴ農業者にとっては負担が大きい。このような状況で、多くの障害者が携わることで、地域における担い手となっている。
- ◆ 安定的な作業受託と広い作業幅により、工賃が安定し、農作業に携わる利用者の令和元年6月の平均月額工賃は25,000円と、県のB型平均を上回った。
- ◆ 実習先での働きぶりが評価され、平成26年から27年の2年間で5名が雇用に至った。

黒星病防除（落ち葉集め）



摘果作業



葉摘み作業



ダイズ生産と豆腐製造を通じた自立支援

〔運営主体：社会福祉法人 岩手更生会〕〔事業所：就労継続支援A型事業所「まめ工房 緑の郷」〕（岩手県盛岡市）

WEBサイト：<http://iwatekouseikai.jp/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 岩手県盛岡市にある「まめ工房 緑の郷」は、社会福祉法人岩手更生会が運営する就労継続支援A型事業所。現在、知的障害者を中心とした施設利用者23名が、ダイズ生産、豆腐の製造・販売のほか、JAを通じて近隣農業者から農作業を受託しており、通年で農業活動をしている。
- 昭和50年に豆腐製造を開始して以来、豆腐の原料となるダイズも自家生産し、六次産業化に一貫して取り組む。
- これまでに請け負った農作業の内容が評価され、農作業の依頼や農地の耕作依頼が増加しており、社会福祉法人が地域農業の担い手となっている。また、広い面積の耕作放棄地を再生。

取組の内容

- ◆ 約15haもの広大な農地でダイズを自家生産するほか、水稻6ha、長ネギ0.4ha等の生産も実施。そのうち、3.8haは耕作放棄地を再生利用。また、生産したダイズを用いて、手造りの豆腐や油揚げを製造。
- ◆ JAを通じて、近隣農業者から農作業やリンゴの選果作業等も受託。
- ◆ 農業専門の職員の確保が難しく、JAや近隣農業者から指導を受け、技術力の向上を図っている。

ダイズ生産をする利用者



早朝からはじまる豆腐づくり



製造した豆腐



取組の効果

- ◆ 農家の高齢化に加え、障害者の丁寧な作業が地域で評価されてきたことにより、**農作業等の依頼は、平成20年度の2件から平成30年度には14件と、10年間で大幅に増加**。また、作業が評価されることで、作業料金の引上げも実現。
- ◆ **豆腐の原材料を自家生産しており、遺伝子組み換えダイズを用いずに、安心・安全な豆腐製造を実施**。
- ◆ 障害者は、手作業のみならず、**作業難度が高い乗用管理機や刈払機の操作まで行えるよう、ステップアップ**。
- ◆ 耕作放棄地の再生利用が評価され、**平成23年度には、社会福祉法人でありながら、全国農業新聞賞を受賞**。

畦畔草刈り作業の受託



WEBサイト：<http://www.ohதாகishizennoen.com/?transactionid=3f1b48e9d99a79d68ab0f58bc3916fac8d37b25a>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 宮城県仙台市にある株式会社大滝自然農園は、昭和54年の就農以来、有機又は無農薬による野菜栽培を実施。その後、近隣農業者から農地の管理を依頼されて、経営規模が拡大し、人手不足となったことから、平成10年に、近隣の障害福祉サービス事業所から障害者を受入れ。
- 障害者の受入人数が年々増加してきたことから、平成16年、NPO法人アグリ・ノーマライゼーションin秋保と就労継続支援B型事業所「サンサンファクトリー」を開設し、現在は23名の利用者が作業を実施。このことにより、自社で障害者の労働力を安定的に確保。
- 生産・加工・出張販売・レストラン営業等、多くの取組を総合的に実施し、障害者が仕事を選べるようになった。

取組の内容

- ◆ 4haの畑と20aのハウスでバレイショ、ミニトマトなど約100種類もの多品目を有機又は無農薬で栽培。また、採卵鶏の養鶏、ドレッシングなどの農産加工、農家レストランの営業、野菜の出張販売といった多様な業務を実施。
- ◆ 障害者は、入所後に多様な業務に一通り携わってもらい、その間に得意分野や好みを見極めて配属。
- ◆ 有機栽培を志す新規就農希望者の研修受入れ。
- ◆ 平成16年に、NPO法人及び就労継続支援B型事業所を設立。

バレイショ収穫作業



農家レストラン外観



取組の効果

- ◆ 生産・加工・出張販売・レストランなど、多くの取組を総合的に実施することで、それぞれの障害者が好きな仕事を選べる可能性を高め、就労意欲が向上。また、ベテランの障害者が作業チーム内の障害者を導くことで、やりがいを感じている。
- ◆ 有機又は無農薬栽培を実施することで、農薬による事故がないという意味で、障害者の安全な作業につながっている。
- ◆ 新規就農希望者が、研修中に障害者と接することで、障害者の就労に対する理解が促され、新規就農後に障害者を受け入れるなど、農業者による農福連携の取組拡大につながっている。
- ◆ B型事業所の開設により、障害者を農作業の担い手として安定的に確保できるようになった。

高い品質の肉用牛を飼育することで、黒字化を達成

〔運営主体：社会福祉法人 月山福祉会〕〔事業所：就労継続支援B型事業所「作業所月山」〕（山形県鶴岡市）

WEBサイト：<https://www.gassanhukusikai.com/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 山形県鶴岡市にある「作業所月山」は、社会福祉法人月山福祉会が運営する就労継続支援B型事業所。昭和63年から農畜産業に取り組み、現在、知的障害者を中心とする施設利用者10名が、県特産豆の生産、果樹栽培とジャム製造、肉牛の飼育等を通年で実施。
- 日本短角種は、国産牧草のみで飼養。将来は、無農薬・無化学肥料の牧草で育てる「有機JAS認証牛」に発展させる構想。また、牧草地と採草地を借り受け、飼育頭数を拡大予定。
- 農畜産業そのものの「質」で勝負することで、畜産部門の黒字化を達成する見込みであり、工賃向上を実現。

取組の内容

- ◆ 一般社団法人 月山畜産振興公社が管理する月山高原牧場等で肉用牛41頭を飼育。日本短角種を国産の粗飼料（牧草）のみで飼育する。自家繁殖も試みている。平成29年11月生まれの牛から、「完全国産牧草牛」としてブランド化し、令和2年3月以降に出荷予定。
- ◆ 障害者は、畜舎の清掃や給餌等を実施。
- ◆ また、約4haの畑と100坪のハウス2棟で、県特産「ただち豆」、ラッカセイ、タマネギ、ニンニクなどの野菜の生産・販売を実施。さらに、庄内柿、ブルーベリー、イチジクを栽培し、ジャムに加工して販売。



取組の効果

- ◆ 輸入飼料による飼育が多い現状で、国産の粗飼料のみでの飼育は貴重。令和3年度には、全国的に珍しい、障害者が生産に携わった「有機JAS認証牛」の認証取得を目指している。
- ◆ （元）公営の牧草地100haと採草地70haを借り受け、飼養頭数を拡大予定。
- ◆ 障害者が県の特産品である「ただち豆」生産に関わることで、障害者が県特産品の生産量の維持に貢献。
- ◆ このように、農畜産業そのものの「質」で勝負することで、令和3年度には黒字化する見込み。利用者の工賃向上の実現に取り組んでいる。

日本短角種



落花生の収穫



加工品（ジャム）



直売所を介して地域農家とつながり、養鶏の担い手に

〔運営主体：社会福祉法人 こころん〕〔事業所：多機能型事業所（就労継続支援A型・B型）「こころん」他〕（福島県泉崎村）

WEBサイト：<http://www.cocoron.or.jp/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 福島県泉崎村にある「こころん」は、社会福祉法人こころんが運営する多機能型事業所。現在、精神障害を中心とする施設利用者30名が、メインとなる養鶏のほか、野菜栽培、加工、直売所の運営などを通年で実施。
- 平成18年から、利用者の就労の場として、農業者が農畜産物を持ち込んで販売する直売所を運営していたが、農業者との関わりを持つなかで、離農者が増加していることを知り、平成21年から自ら野菜生産を開始。平成22年には、高齢のために継続が困難になった養鶏場を引継ぎ、養鶏を開始。
- 直売所運営を契機として、地域の農業者とつながり、自社での野菜生産から平飼養鶏にまで発展。

取組の内容

- ◆ 平成21年、再生利用した耕作放棄地を含め、約3.5haの農地において、無農薬・無化学肥料でオクラ、キクイモなど約50品目の野菜と水稻を栽培。
- ◆ 平成22年、高齢のために継続が困難になった養鶏場を引継ぎ、養鶏を開始。平成29年度には、「農山漁村振興交付金」を活用して、新たな養鶏場を整備し、翌平成30年から平飼いに移行。現在は、約1,000羽を飼育。
- ◆ 地域の農業者が農畜産物を持ち込んで販売する直売所を運営。

オクラの栽培

養鶏場内

直売所

取組の効果

- ◆ 直売所の運営を契機として、地域の農業者とつながり、自社での野菜生産から、平飼養鶏にまで発展。また、直売所に出荷する農業者や、平成23年度に雇用した有機農業者が栽培技術を指導することで、取組開始当初の農業知識の不足をカバー。
- ◆ 農業技術の習得に加え、生産物をカフェで提供することで味が評判となり、売上げが増加。平成30年度の売上は、約9,600万円（うち鶏卵は約840万円）となり、生産活動での収入のみで利用者の賃金・工賃を支払っている。また、平成29年度の平均月額賃金／工賃は、A型事業所が90,683円、B型事業所が23,445円と県内平均を上回る。
- ◆ 農業者とつながることで、A型事業所の利用者の一部は、施設外就労を実施。近年、その件数が増えつつある。

常陸牛の飼育という地場産業を通じて畜産の中心的担い手に

〔運営主体：医療法人 直志会〕〔事業所：多機能型事業所（就労継続支援B型・就労移行支援）「MINA AMIGO」〕（茨城県大子町）

WEBサイト：<https://www.fukuroda-hp.jp/mina-amigo.html>

視察受入れ：可 報道機関受入れ：可（撮影制限あり）

- 茨城県大子町で障害福祉サービス事業所「MINA AMIGO」（ミナ・アミーゴ）などを運営する医療法人直志会では、昭和54年から、黒毛和牛の飼育を通じた精神障害者の社会復帰活動を進めており、現在約20名の施設利用者等が、同法人が運営する「アミーゴ牧場」で、黒毛和牛の飼育に携わっている。
- 現在、和牛繁殖と子牛のせり市場への出荷をしており、過疎化と高齢化が進み、ブランド牛「常陸牛」を生産する畜産農家が減少している中、和牛生産の貴重な担い手と位置付けられている。
- 障害者は、「畜産ヘルパー」として、町内の畜産農家をサポートするとともに、「せり市ヘルパー」としてせり市場の運営をサポートするなど、町内の和牛生産における人材供給の役割も果たしている。

取組の内容

- ◆ 牛舎3棟で、約50頭の和牛を飼育し、年間約25頭の繁殖子牛を大子せり市場に出荷。年間約2,000万円を売り上げる。他の農業者に先駆けて防虫ネットを導入するなど、徹底した品質管理を実施。
- ◆ 障害者は、牛舎清掃のみならず、牛の搬入・搬出などの動物に直接触れる作業も実施するが、平成3年から、和牛専門職員を随時増員して、作業指導にあたっている。
- ◆ 平成18年から、高齢の畜産農業者等からの要請により、畜産作業を請け負う「ヘルパー」として、障害者の派遣を開始。
- ◆ 町内の耕作放棄地約3haを借り受け、分娩を軽くするために牛を放牧するほか、平成22年には、自閉症患者に向けた作業を創るため、耕作放棄地約40aを開墾し、自然栽培による野菜農園を開設。

アミーゴ牧場



放牧地での作業風景



ヘルパーの作業風景



取組の効果

- ◆ 地場産業である畜産に取り組むことで、障害者が自然な形で地域社会に受け入れられている。
- ◆ 約40年に渡る取組によって培われた確かな飼育技術と高い品質を信頼され、平成26年には、全国で極めて稀な医療法人として認定農業者となるとともに、茨城県の新規就農者の研修先となるなど地域を代表する和牛生産の貴重な担い手として位置付けられている。
- ◆ 「畜産ヘルパー」や「せり市ヘルパー」の派遣に加え、牛のショートステイを牧場に受け入れることにより、町内の和牛生産における働き手供給の役割を果たしている。
- ◆ 町内の耕作放棄地を積極的に活用し、耕作放棄地の解消に貢献。

ヘルパーの種類

主な作業内容（H30年度実績）

畜産ヘルパー	牛舎清掃（17件）、飼料づくり（6件）、給餌（44日）など
せり市ヘルパー	大子市場での牛の世話（92頭）、競りの手伝いなど
ショートステイ	牧場での一時預かり（36件、のべ1,024日）

障害者の自立を支援する胡蝶蘭事業のデザイン

①直接就労型

〔パナソニック ハートファームアソシエイツ株式会社 群馬事業所〕（群馬県大泉町）

WEBサイト：<https://www.panasonic.com/jp/company/phfa.html>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 電機大手パナソニック株式会社の特例子会社パナソニック ハートファームアソシエイツ株式会社は、平成11年に群馬県大泉町に事業拠点を設け、現在は8名の知的障害者等がコチョウランの栽培・出荷等に従事。
- 親会社のものづくり手法を生かし、障害者の作業をサポートするオリジナル治具の開発をすることで、障害者が作業をしやすい環境を整備。
- 高品質なコチョウランの通年出荷を可能とし、平成23年度には、「障害者の自立を支援する胡蝶蘭事業のデザイン」としてグッドデザイン賞を受賞。群馬県の障害者就労サポーター企業にも登録。

取組の内容

- ◆ 温室において障害者の通年作業を確保できることに加え、高収益が見込まれる商品として、コチョウランを選択。
- ◆ 平成16年に約2,000㎡の温室を設立し、年間約5万株を栽培・出荷。令和元年7月時点で、8名の障害者を雇用し、水やり、誘引、葉面洗浄作業などに従事。
- ◆ 親会社のものづくりの手法を生かし、仕立て用の支柱を規定の角度に曲げるオリジナル治具などを開発。障害者の細かい判断を不要としている。

取組の効果

- ◆ 障害者社員の取り組める職域を拡大することで、当初3名であった障害者を8名まで拡大。
- ◆ 治具の導入や作業基準の明確化により、高品質なコチョウランを出荷。
- ◆ パナソニック株式会社を退職した高齢者が、治具制作や障害者の指導を担うなど、障害者と高齢者でワーキングチームを構成することで高齢者も活躍。
- ◆ 平成23年には「障害者の自立を支援する胡蝶蘭事業のデザイン」としてグッドデザイン賞を受賞するなど、高い評価を得ている。

栽培温室



治具による支柱加工



誘引作業



水コケ入れ・葉面洗浄



グッドデザイン賞受賞



- 埼玉県熊谷市にある埼玉福興株式会社は、社会福祉法人をルーツとして、平成8年に設立された農業法人。その後、同社は、NPO法人Group Farm 及び 就労継続支援B型事業所「オリーブファーム」などを設立。現在は、知的障害者を中心とする施設利用者32名が、オリーブの栽培などに通年で取り組む。
- 手作業でオリーブを生産し、平成28年には、国際オリーブコンテストで金賞を受賞、品質が高く評価される。
- グループホームを設立するとともに、触法障害者、ニートやひきこもりだった方など、社会的に支援を必要とする立場にある方を積極的に受け入れており、このような人々が、農業分野で収益を上げることによって共同生活する「ソーシャルファーム」の実現を目指している。

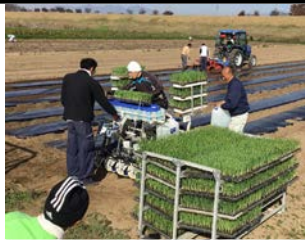
取組の内容

- ◆ 水耕栽培ハウス2,241㎡での葉物野菜のほか、露地・野菜ハウスを合わせて5.3haでネギ等を生産。また、2haの農地でオリーブを栽培。
- ◆ 平成19年には、県内の株式会社として初めて農地所有適格法人となり、福祉事業を行いつつも農業生産が評価される。平成20年には、市から認定農業者に認定。
- ◆ グループホームの設立に加え、触法障害者、ニート、ひきこもりなど、社会的に支援を必要とする立場にある人を積極的に受入れ。
- ◆ 代表取締役は、関東農政局が事務局を務める「関東ブロック障害者就農促進協議会」の会長をしており、多くの視察を受け入れ、各地で講演。

取組の効果

- ◆ 健康と美容によりオリーブオイルの国内需要が高まっている中、関東では珍しいオリーブ生産に取り組むことで、障害者等が需要にこたえる貴重な担い手となっている。
- ◆ 手作業でオリーブを生産し、平成28年には、国際オリーブコンテストで金賞を受賞。品質が世界的に高く評価されている。
- ◆ 罪を犯した者にとっては、再犯を防止するために、安定的な仕事が必要であるが、埼玉福興は、安定的な農作業を提供することで、最長12年間の未再犯者を出しており、保護観察所より表彰。
- ◆ 取組を地域に広げ、「赤城おろし経済圏」における農福連携モデル事業を実施し、参加主体は8事業所・4農業組織まで増加。

タマネギの移植



収穫したオリーブ



抽出したオリーブオイル



- 人材大手パーソルグループの特例子会社パーソルサンクス株式会社は、平成30年度、神奈川県横須賀市と協定を締結し、同市内に事業拠点「よこすか・みうら岬工房」を設け、11名の障害者が野菜生産等に従事。
- 特例子会社が農業分野で自治体と協定を締結するのは、全国初の試み。企業が農業地帯に参入することで、安定した組織基盤をもって、その地域における労働力不足の課題を確実に解決するとともに、企業にとっては障害者雇用を増やすことができるなど、双方にとって有意義な取組となっている。

取組の内容

- ◆ 平成30年度、横須賀市と農福連携に関する包括連携協定を締結。確認されている中では、特例子会社における全国初の試み。
- ◆ 農地取得のコストや販路責任がないことなどの利点に着目し、企業は自社で農業経営を行わず、横須賀市及び三浦市周辺の8つの農業経営体から農作業を受託。
- ◆ 令和元年8月時点で、11名の障害者社員が、草取り・マルチ張りなどの圃場整備、キャベツ・ダイコンの苗の定植、農業者の直売所の販売補助などの業務を行っている。

取組の効果

- ◆ 平成30年度は延べ124日の作業を実行。企業が農業地帯に参入することで、その地域における労働力不足の課題を確実に解決。
- ◆ 本社が東京にありながらも、事業拠点として農業地帯に根付くことで、障害者が地域から不可欠の存在となれば、将来的にAI等が発達しても、障害者の雇用を守ることにつながる。
- ◆ 工房の指導スタッフが、農作業の指導技法を学ぶことで、将来的には農業版ジョブコーチとして活躍。企業の給与で活動費用を心配せずに、他の取組主体に貢献できる可能性を創出。

横須賀市と協定を締結

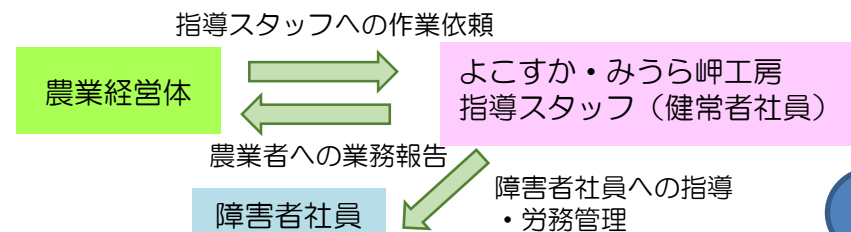
野菜苗の定植作業



野菜の出荷・調製作業



農作業受託イメージ



農協によるマッチングで多くの組合員にメリットを生み出す。

中間支援の取組

〔松本ハイランド 農業協同組合〕（長野県松本市）

WEBサイト：<https://www.ja-m.iijian.or.jp/>

視察受入れ：不可

報道機関受入れ：可

- 長野県松本市ほか1市5村を管内とする「松本ハイランド農業協同組合」は、平成30年度から、農業者の組合員が障害福祉サービス事業所に農作業を委託する際に、両者の間を取り持つ「マッチング事業」を実施。
- 「マッチングコーディネーター」1名を配置し、組合員が求める農作業に対応できる障害福祉サービス事業所を紹介。また、作業内容をあらかじめメニュー化して、障害福祉サービス事業所の不安を軽減するとともに、作業委託料を提示することにより、農業者が組合員であるJAという立場で、農業者と障害福祉サービス事業所の間に入り、マッチングを実施。
- 組合員にとっては、単発的に必要とする際に労働力を確保でき、障害福祉サービス事業所にとっては、仕事が増えるなど、双方にとって良い効果を生み出している。

取組の内容

- ◆ 平成29年7月から、JA青年部を中心に組合員と障害福祉サービス事業所を繋ぐマッチングのモデル事業に着手。平成30年度から、JA事業として本格始動。
- ◆ 組合員は、依頼したい作業内容をJAに申し込み、コーディネーターを介して、障害福祉サービス事業所に仕事を依頼。農作業の請負契約は、組合員と障害福祉サービス事業所が締結。
- ◆ JAは、作業内容をあらかじめメニュー化することで、障害福祉サービス事業所の不安を軽減。メニュー化した作業は、時給制でなく、作業内容・作業量に応じた単価制とし、作業の報酬単価を明確化することで、農業者も障害福祉サービス事業所も納得して利用。

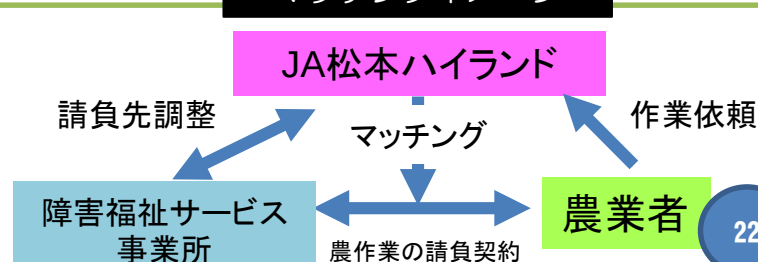
取組の効果

- ◆ JAとしては珍しい取組であるが、平成30年度は、33農家と8事業所をマッチングし、332回の農作業を延べ1,041人の障害者に委託するなど、大きな成果を上げている。
- ◆ 障害者の労務管理は、障害福祉サービス事業所の職業指導員が行うため、**組合員自らの労務管理は不要。**
- ◆ 農作業工程を分割して、誰でも行いやすい部分を障害福祉サービス事業所に委託。このことにより、**組合員は、単発的に労働力を必要とする際に労働力を確保できるとともに、自分しかできない作業に集中することで、生産性が向上。**

加工用トマトの収穫



マッチングイメージ



- 静岡県浜松市にある京丸園株式会社は、同地域において13代続く農業者。平成8年から、毎年1名ずつ障害者の雇用を継続し、現在は、知的・身体障害者24名が、葉物野菜の水耕栽培に通年で従事している。
- 熟練農業者による難度の高い作業について、簡易な器具を用いたり、新たな機械を導入することで、多くの障害者が作業可能となっている。
- 県立浜松特別支援学校の高等部から、職場実習として生徒を受け入れてきており、その後の雇用につなげている。
- 障害者の数が増えるにつれて売上が伸びていることに加え、一貫して黒字経営を達成。障害者雇用が農業経営の発展につながることを証明。農業者が取り組む農福連携の代表的モデルとなっている。

取組の内容

- ◆ 総面積1.3haの水耕栽培ハウス35棟において、ミニチンゲンサイ、ミツバ、軟白ネギを生産し、ミニチンゲンサイは1日あたり約2.5万本をJAに出荷。また、1.3haの田畑でコメやイモ等を生産。
- ◆ 平成8年から、毎年1名ずつ障害者を直接雇用。また、伊藤忠テクノソリューションズ株式会社の特例子会社である株式会社ひなりや、市内の就労継続支援B型事業所にも、農作業を委託。
- ◆ 芽ネギの苗をベッドに定植する作業は、微妙な力加減を必要とし、熟練農業者しかできない難しい作業だったが、下敷きを活用して埋め込むなど、障害者ができる工夫を実施。
- ◆ 作業を細分化し、難易度別にマッピングした「京丸ナビケーションマップ」を作成。
- ◆ 県立浜松特別支援学校の高等部から、職場実習として生徒を受入れ。

取組の効果

- ◆ 障害特性に対応した作業の細分化と割付けや、作業方法の工夫により、自らの経営を見直し、生産性が向上。その結果、雇用する障害者数が増えるにつれて売上が伸びていることに加え、一貫して黒字経営を達成。現在の年商は、約4億円。
- ◆ 障害者を多数雇用し、作業の手間をかけることができるため、市場ニーズがある小分け包装した野菜などを商品化。
- ◆ 障害者が作業しやすくなるよう、生産工程の管理を徹底し、平成25年には、JGAP認証を取得。

誰が行っても正確な定植ができる
パネルを開発



器具の工夫による
芽ネギの定植



京丸ナビケーションマップ

作業	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6
1 播種・草取り	汚れた手洗い	一定作業量可	虫トラップ			
2 トレーコンナガイ	汚れた手洗い	作業量使用可	買・量			
3 苗ポット組み立て		作業量	正・量			
4 ちんげん菜定植		立作業	正・量	苗の品質別		
5 ちんげん菜収穫			刃物使用	正・量	品質変化対応	目標値
6 葉みつば下葉とり				正・量	品質変化対応	目標値
園下り						



WEBサイト：<http://www.takumi-farm.jp/>

〔株式会社 たくみファーム〕（新潟県新潟市）

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 株式会社たくみファームは、平成27年8月、国家戦略特区に指定された新潟市内において、地元の農事組合法人と障害福祉サービス事業所の運営企業が、共同で設立した特例農業法人。
- 平成28年度から、発達障害を持つ1名を正社員として雇用。また、市内の障害福祉サービス事業所3箇所から、約20名の障害者を施設外就労として受け入れ、野菜と果樹の栽培を行う。
- ハウス内の温度、二酸化炭素の濃度、かん水の制御等、特に注意が必要となるハウス環境維持作業は、農園の管理者等が、情報通信技術（ICT）を活用し、スマートフォンで行うことを可能にしている。
- 平成28年度にG-GAP認証を取得。2020年東京オリンピック・パラリンピックへの食材供給を目指す。

取組の内容

- ◆ 市内の農業者から、約80aの耕作放棄地を借り受け、平成27年度に自己資金と一部ファンドを活用し、ハウス6棟とイチジク畑を整備。現在は、135aで栽培。
- ◆ 親会社を通じて雇用した障害者1名は、摘果・管理作業を行うほか、施設外就労で受け入れる障害者は、収穫・除草を実施。
- ◆ 特に注意が必要となるハウス環境維持作業は、農園の管理者等がICTを活用して省力的に実施。また、障害者に分かりやすいよう、視覚的な看板で注意喚起。
- ◆ 高品質な少量生産にこだわり、市内のスーパーマーケットと通信販売による限定販売を実施。

取組の効果

- ◆ 高品質野菜にこだわり、平成28年度「野菜ソムリエサミット」では、ミニトマトが金賞を受賞。
- ◆ 障害者に配慮した生産工程を構築したことが、平成28年度、ミニトマト、ニンジン及びイチジクでG-GAP認証の取得にもつながる。ブランド化を図りつつ、2020年東京オリ・パラへの食材供給を目指す。平成29年度には、ロシアのオリンピック選手等にミニトマトを進呈するなど、高品質を国際的にPR。
- ◆ 平成30年度における売上は、約5,200万円を達成。売上増加に伴い、施設外就労に来る障害者数は、約20名まで増加するなど、障害者の就労の場の拡大を実現。

ICTを活用したハウス



ハウス内の温度管理



視覚的な注意喚起



ロシアのオリンピック選手へミニトマトを進呈



G-GAP認証を取得したミニトマト「天使の唇」



市の振興作物であるエダマメの生産・加工による障害者の雇用拡大

〔運営主体：一般社団法人 土の香工房〕〔事業所：就労継続支援A型事業所「ソーシャルファームドリーと緑の風」〕（新潟県上越市）

WEBサイト：<https://www.cotocoto-garden.biz/>

視察受入れ：可（要相談）

報道機関受入れ：可（要相談）

- 新潟県上越市にある「ソーシャルファームドリーと緑の風」は、一般社団法人土の香工房が運営する就労継続支援A型事業所。平成27年度の実組開始以来、エダマメやハーブ、イチジク等の生産と、エダマメを用いた加工品の製造を通年で行っている。
- 県内では、数少ない就労継続支援A型事業所であり、精神障害者を中心とした約10名を安定的に雇用。
- 市の新たな振興作物であるエダマメに着目。平成30年度からは、加工所を整備してエダマメの加工も実施。一次加工品を地元企業へ提供することにより、安定的な収益を確保し、障害者の雇用拡大を図っている。

取組の内容

- ◆ 農地約50aにおいて、エダマメとハーブ等を生産。障害者は、栽培管理や収穫、加工などの作業に従事。
- ◆ 新潟県上越市は、平成27年度から、地域ブランド「メイド・イン上越」を構築することで、農産品の販売を通じた地域活性化に取り組んでいる。その一環として、エダマメを原料とした菓子などの特産品を開発するために、当事業所は、令和2年度から、加工した枝豆きな粉を量産化し、市内の菓子業者等へ通年で安定供給をめざす。
- ◆ エダマメの加工所は、平成30年度「農山漁村振興交付金」を活用して新設。

取組の効果

- ◆ 加工所の新設に加え、市内農業者からもエダマメを受け入れることで、現在の一次加工量は、220kg/月と多量で安定。
- ◆ 事業の安定化により、事業所の利用者数を20名まで倍増させる予定。障害者が働く場所の創出に貢献。
- ◆ きな粉にとどまらず、ソフトクリーム、せんべい、パン、豆腐、餅など、エダマメを活用した地域ブランドの開発を拡大予定。

エダマメの管理作業



エダマメ加工所の整備



加工作業の様子



枝豆きな粉
(風味が特長)



地域ブランドのPR



桑畑を再生、農産物の6次産業化で、目指せ 地域ブランド！

〔運営主体：社会福祉法人 フォーレスト八尾会〕〔事業所：就労継続支援B型事業所「おわらの里」〕（富山県富山市）

WEBサイト：<http://www.cty8.com/forest/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 富山県富山市にある「おわらの里」は、社会福祉法人フォーレスト八尾会によって開設された就労継続支援B型事業所。現在は、知的障害・身体障害等を含む約40名の利用者が、主に桑の栽培と加工を行っている。
- 桑の葉は、障害者が1枚1枚を手摘みによって丁寧に収穫・洗浄・乾燥し、品質を維持。
- 平成24年度には、桑の葉を用いた加工品の製造設備を導入。桑茶やマルベリージャム、「桑の葉ソフトクリーム」などの加工品の量産化に成功し、工賃向上に取り組んでいる。

取組の内容

- ◆ 平成16年度から、耕作放棄地を障害者とともに再生して、現在は約40aで桑の栽培を実施。
- ◆ 障害者は、桑の葉と桑の実（マルベリー）の収穫と、洗浄、乾燥及び加工作業などを通年で実施。
- ◆ 平成18年度から、桑の葉を利用した茶、せんべい、ケーキ、ソフトクリーム及びペットボトル飲料など、多様な加工品を製造・販売している。
- ◆ 平成28年度には、町内農家から約40aの農地を借り受け、水稻や野菜の栽培も開始。
- ◆ 平成29年度「農山漁村振興交付金」を活用し、桑や野菜の出荷調製のための作業所を新設。

取組の効果

- ◆ 市内の八尾地域では、桑の栽培農家はいなくなったが、事業所が桑栽培の引き受け手となることにより、桑という貴重な農産物を守ることにつながっている。
- ◆ また、桑の葉と実を利用することにより、桑という地域資源を新たな形で維持することができている。
- ◆ 作業所の新設により、作業効率が向上した結果、桑の葉（乾物）の生産量が年間50kgも増加した。
- ◆ 加工品の売上は、平成29年度の約860万円から、平成30年度の950万円に増加した。また、売上増に伴い、利用者数を5名増やすことができた。

桑の葉の収穫



桑の葉の洗浄



桑の葉せんべいの加工作業



桑の葉ソフトクリーム



作業所の新設



水稲の無農薬栽培、加工、施設外就労で工賃向上を実現

③連携型（うち福祉側の取組）

〔運営主体：株式会社 愛昂〕〔事業所：多機能型事業所（就労継続支援A型・B型）米ライフ〕（石川県津幡町）

WEBサイト：<https://aisumaru.co.jp/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：不可

- 株式会社愛昂（あいすまる）は、平成25年度、要介護高齢者のデイサービス事業を行うことを目的として設立された会社である。平成28年度から、障害者の就労支援事業を開始。
- 身体、精神、知的障害等を持つ利用者約20名が、生活の基本となる“農”と“食”をコンセプトとして、主として米農業者への施設外就労を行っている。
- 平成29年度には、野菜用のパイプハウスを設置し、障害者の就労の場の拡大を図る。また、中山間地域において、山合いの水のみを利用した水稲の自然栽培に取り組むとともに、米粉製品や無添加メンマの製造を組み合わせることで、売上高の増加を実現。

取組の内容

- ◆ 障害者の工賃アップのために、平成29年度から、近隣農家への施設外就労を開始。農家数件へ出向き、水稲の苗箱運び、ハウス内の耕起・整地、収穫作業等を実施。
- ◆ 水田作業を収穫と運搬等に細分化し、それぞれに、専従の障害者を割当てる。
- ◆ 平成29年度「農山漁村振興交付金」を活用し、野菜用のパイプハウス2棟とメンマ等の保冷庫を整備。

取組の効果

- ◆ 施設外就労の拡大により、平成29年度から30年度にかけて、農業者への就労者数が6人から15人に大幅増。町内農家の労働力不足の解消に貢献。
- ◆ 水田作業以外の農作業を希望する障害者も増えたことから、平成28年度からは、近隣の山に自生するタケノコ収穫と、無添加メンマの製造も開始。
- ◆ 米、米粉ドーナツ・国産メンマ等の加工品を合わせた売上高は、約100万円/年。施設外就労での報酬も合わせると、平成30年度におけるA型利用者の平均賃金は、7.8万円/月と県内A型平均を約1万円も上回る。

バリアフリーの作業所



加工作業の様子



無添加メンマ



米粉ドーナツ



自然栽培米の収穫



〔運営主体：特定非営利活動法人 ころこ〕〔事業所：就労継続支援A型事業所「C&Cサービス」〕（福井県福井市）

WEBサイト：<https://twitter.com/cocorofarm5560>

視察受入れ：不可

報道機関受入れ：可（要相談）

- 福井県福井市にある「C&Cサービス」は、関連病院の統合失調症やうつ病患者が職業復帰することを目的として、平成25年に、特定非営利活動法人ころこが設立した就労継続支援A型事業所。現在は、精神障害者約10名が、農園「ころこファーム」において、野菜の減農薬又は有機栽培を通年で行う。
- 減農薬又は有機栽培を行うことで、ブランド野菜の生産に取り組む。
- 平成29年10月の台風と、平成30年1～2月の大雪で被災し、ハウスが倒壊。一時は、障害者の就労場所が失われかけたが、平成30年度に基盤整備とハウスの再整備を実施し、営農を再開。

取組の内容

- ◆ 33aの畑と10aの水田において、ホウレンソウ、コマツナ、カボチャ、タマネギ及びジャガイモ等を栽培。
- ◆ 農産物は減農薬又は有機栽培することで、高品質化とブランド化を図る。
- ◆ 台風と大雪で被災したが、平成30年度「農山漁村振興交付金」を活用し、ハウスの改良や堆肥舎の新設等の基盤整備を実施。

取組の効果

- ◆ 障害者等の10名の就労の場を確保。
- ◆ 農作業を通じた職業訓練により、対象者6人のうち、4名の職場復帰（リ・ワーク）が実現。
- ◆ 交付金を活用してハウス3棟を改良したほか、堆肥舎の新設等の基盤整備を実施することで、**経営面積が10a増加**。新規作物であるミズナの栽培にも挑戦。

大雪により倒壊したハウス



基盤整備を実施する



営農再開



コマツナの栽培



マルシェで販売



ブドウ・ナシ栽培を10年。福井県における農福連携の中核に

②福祉完結型

〔運営主体：特定非営利活動法人 ピアファーム〕〔事業所：就労継続支援B型事業所「ピアファーム」「産直市場ピアファーム」〕（福井県あわら市）

WEBサイト：<http://peerfarm.jp/>

視察受入れ：可（有料、Webサイトの申込書にて予約）

報道機関受入れ：可

- 特定非営利活動法人ピアファームは、平成20年4月、福井県内の社会福祉法人から独立して、農作業と農産物直売に特化した事業を行うため、別途設立された法人。
- 知的障害者を中心とした利用者約40名が、2つの就労継続支援B型事業所において、日本ナシとブドウの生産、果実を用いた加工品の製造、農産物直売所とスーパーマーケットの運営などを通年で実施。
- ナシとブドウの品質に定評がある。また、毎年、農場には多数の来場者があり、観光地や体験農園としても有名。
- 農林水産省の交付金を活用し、北陸地域で唯一「施設外就労コーディネーター」の育成を実施。

取組の内容

- ◆ 平成20年度から、後継者のいないナシ農園の集積を行う。近年、事業所周辺の耕作放棄地も再生し、ブドウ及び野菜の栽培も実施。農場は約6.6haとなる。
- ◆ 農産物・加工品として求められる品質を満たすことを最重視。県の農業部局と栽培技術を探求するとともに、産業部局とは市場調査を実施。
- ◆ 平成28年度から、梨ジュースの製造にも取り組み、毎年約1,000本～1,500本を販売するほか、ゼリーやジャムなどの加工も実施。
- ◆ 市内外の農業者176戸が出荷する直売所を運営。
- ◆ 令和元年度「農山漁村振興交付金」を活用し、施設外就労コーディネーターを育成。

取組の効果

- ◆ 高品質を維持するために、手作業を多くすることで、結果として、多数の障害者の作業を創出するとともに、防除回数を減少させ、減農薬栽培を実現。
- ◆ 多数の人員がいるため、ブドウについては、24の多品種を栽培。年間80日以上の出荷が可能。
- ◆ 平成25年度には、観光農園を開設し、年間約3,500人が来園。
- ◆ 平成28年度には、梨ジュースとナシのセットが、県の優良観光土産品として推奨された。
- ◆ これらの活動の結果、平均事業収入は、年間1億5千万円程度を維持。平均工賃は、「ピアファーム」が約4万円/月、「産直市場ピアファーム」は約5万円/月と、県内のB型事業所の平均を上回る。
- ◆ 施設外就労コーディネーター10名を育成することで、農業者と障害福祉サービス事業所の契約仲介を進めるなど、県内における農福連携の中心的存在。

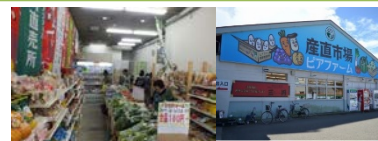
日本ナシの収穫作業



高品質のマスカット
なんと、一房1万円！



梨ジュース



産直市場ピアファーム

peer farm

〔一般社団法人 岐阜県農畜産公社「ぎふアグリチャレンジ支援センター」〕（岐阜県岐阜市）

WEBサイト：<http://www.gifu-notiku.com/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 岐阜県は、平成26年度頃から、農福連携の推進に取り組んでいる。平成29年度には、県の外郭団体である一般社団法人 岐阜県農畜産公社内に、「ぎふアグリチャレンジ支援センター」を設置し、平成30年4月には、同センター内に、農福連携のワンストップ窓口として「農福連携推進室」を設置。
- ①農業分野への参入を検討する障害福祉サービス事業所からの相談対応、②農業者と障害福祉サービス事業所とのマッチング、③農作業指導者の派遣、④「農福連携推進マニュアル」を作成、⑤障害者の受入体験を行う農業者に対する人件費の助成、⑥障害者を受け入れる農業者に対する環境整備費用の助成など、農業者と福祉施設の双方に対し、総合的な支援を実施。

取組の内容

◆①相談対応

農作業を委託したい、農業分野への参入を検討したい障害福祉サービス事業所などの相談に対応。

◆②マッチング

農福連携コーディネーター2名が、農業者や障害福祉サービス事業所を個別訪問し、農作業に関する請負契約の締結のマッチングを実施。

◆③農作業指導者の派遣

初めて農作業に従事する障害福祉サービス事業所に派遣し、障害者の農作業を支援。

◆④マニュアルの作成

障害者を受け入れる方法、作物ごとの農作業の注意点などをわかりやすく図解した「農福連携推進マニュアル」をHPで公表。

◆⑤障害者の受入体験を行う農業者に対する人件費の助成

障害者の受入体験を行う農業者に対し、賃金相当額を助成（補助率10/10、補助上限額10万円/件）。

◆⑥作業環境の整備に関する費用の助成

障害者を受け入れた農業者に対し、作業環境の整備に関する費用を助成（補助率1/2、補助上限額50万円/件）。

取組の効果

*平成30年度の結果

◆①相談業務

相談件数80件、訪問件数48件

◆②マッチング

マッチング11件。

◆③農作業指導者の派遣

サポーター登録者3名、派遣17件。

◆⑤農業者に対する人件費の助成

活用6件。

◆ 令和元年度には、農業大学校において、障害福祉サービス事業所の職業指導員等に対する栽培技術の指導も開始。

マニュアル等



農作業受委託



マルシェ



〔運営主体：株式会社 DAI〕〔事業所：就労継続支援A型事業所「それいゆ」〕（岐阜県関市）

WEBサイト：<https://www.dai2011.com/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 岐阜県関市にある「それいゆ」は、平成23年に、株式会社DAIが設立した就労継続支援A型事業所。現在、精神障害などを持つ施設利用者8名が、野菜生産と加工・販売に取り組む。
- また、平成28年度から、サトイモ農業者の組合に加入。市内の農業者から借り受けた圃場で、指導を受けながら、県特産品である「円空里芋」を生産。組合員から、手間のかかる調製作業を受託することで、組合員の経営に余裕が生まれるとともに、事業所は安定的に工賃を支払えるなど、双方にとってメリットが生まれている。

取組の内容

- ◆ 約1haの農地において、ニンニク、サツマイモ、タマネギなどを生産。乾燥野菜への加工も実施。
- ◆ 平成28年度から、県の中濃農林事務所やJAめぐみの等の仲介により、組合員から県特産品「円空里芋」の収穫作業、毛羽取り、選別作業を受託。
- ◆ 市内の農業者から借り受けた圃場30aで、指導を受けながら、自社でもサトイモの栽培を実施。
- ◆ JAめぐみの主催の就農塾に参加し、基礎知識や農業技術を習得。

取組の効果

- ◆ サトイモの調製作業は手作業で行われており、多くの作業時間を要するが、障害者に調製作業を委託した組合員からは「時間に余裕ができ、他の作業をすることができるようになった」と好評。
- ◆ 中濃里芋生産組合の栽培総面積は、10.5haから13.7ha、組合員1戸当たりの栽培面積は、15aから20aへと増加。
- ◆ 丁寧な作業により信頼を得ていく中で、調製量が増えてきており、平成28年度は農業者4戸から3戸だったが、平成29年度は7戸から30戸、平成30年度は16戸から45戸と、開始当初から15倍に増加。
- ◆ サトイモ関連作業に従事する障害者に支払われる平均賃金は約9万2千円/月と、県内A型事業所の平均を上回る。

収穫作業



調整作業



委託農家と撮影



自然栽培により耕作放棄地を解消

②福祉完結型

〔運営主体：社会福祉法人 無門福祉会〕〔事業所：就労継続支援B型事業所「むもんカンパニー」他〕（愛知県豊田市）

WEBサイト：<http://www.mumon-fukushi.net/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 愛知県豊田市にある社会福祉法人無門福祉会は、就労継続支援B型事業所「むもんカンパニー」など3つの障害福祉サービス事業所を運営。昭和63年の開所以来、農作業に取り組んでおり、現在は、知的障害者を中心とした施設利用者51名が、野菜と米の生産、加工を通年で実施。
- 平成26年から、農作業の場として、市内の耕作放棄地の再生を開始。障害者が、農地を維持する役割を担う。
- 平成26年から、無肥料・無農薬の自然栽培に切り替えたことで、農業に手間をかけることが就労意欲の向上につながり、耕作面積と売上高が増加するなど、経営に効果があった。

取組の内容

- ◆ 5haの農地において、イチゴ、菌床シイタケ、サツマイモ、コメ等は無農薬・無肥料で自然栽培。また、養鶏農家で約300羽の飼育作業も実施。障害者は、農作業全般のほか、出荷調製、加工、販売まで実施。
- ◆ 開所当初は、野菜が売れず、職員・利用者ともに作業意欲が低かったが、平成26年に自然栽培に切り替えた。現在、法人の事務局長は、自然栽培による農福連携を通じて耕作放棄地の解消を目指す団体「一般社団法人 農福連携自然栽培パートナー全国協議会」の理事長を務める。
- ◆ 開所当初は、障害者には石拾いなどの単純作業を割り当てたが、飽きてしまうなどの様子が見られたため、その後、比較的難度の高い収穫や選別作業などにも従事。

取組の効果

- ◆ 自然栽培への切替により、農業に手間をかけることで就労意欲の向上につながり、3年間で耕作面積が4ha増加。また、平成29年度の売上高は、3事業所合計で約6,900万円。
- ◆ 農業技術の高さが評価され、平成26年からは、市内の農業法人から農作業の請負を開始。
- ◆ 障害者が作業に習熟することにより、イチゴポットの土詰めは、同じ時間で100ポットから700ポットへと7倍の処理が可能になった。

イチゴの虫取り作業



サツマイモの収穫作業



- 愛知県春日井市にある有限会社H&Lプランテーションは、園芸を行う農業法人。平成12年から、障害者の受入れを開始。現在は、精神障害者1名をパート社員として雇用するほか、近隣の障害福祉サービス事業所から、知的・精神障害者、生活保護受給者など数名を受け入れ、花き鉢物の生産を通年で行う。
- 受入れ開始から20年近くで、障害者の受入れ機会を大幅に増やすことができた。
- 農福連携の技術指導者「アグリジョブコーチ」がほ場で指導を行うことで、円滑な作業を実現。
- 動物園や植物園の花壇の植栽作業や花の提供を実施するなど、障害者の作業による成果が地域に広まっている。

取組の内容

- ◆ 農地1haで、ハーブ、花、多肉食物、野菜等の苗を生産し、自ら販売も実施。
- ◆ 農福連携の技術指導者「アグリジョブコーチ」がほ場で指導を行うことで、円滑な作業を実現。
- ◆ 法人の代表取締役は、日本園芸福祉普及協会の認定資格である園芸福祉士を取得するなど、障害者の受入れに熱心に取り組む。

花苗の移動作業



花苗の施肥作業



取組の効果

- ◆ 障害者を受け入れて指導することにより、農場の貴重な人材の確保につながった。
- ◆ 社会貢献活動と営利活動の両立により、農場スタッフが“やりがいと達成感を感じるいい仕事”ができていると実感。
- ◆ 障害者を直接雇用しているが、障害者がかつて所属していた就労移行支援事業所と連絡を欠かさず、それぞれの障害者への接し方の留意点を把握。その結果、障害者のケガや病気の防止につながり、良い労働環境を実現。
- ◆ 園芸を通じたまちづくりを行うNPO法人に協力して、動物園や植物園の花壇の植栽作業や花材提供等を行うことで、障害者の作業による成果が地域に広まっている。

- 三重県は、平成20年度頃から、農福連携の推進に積極的に取り組んできている。特に、名張市では平成20年度から、鈴鹿市では平成27年度から、それぞれ農福連携の協議会を設置して、全国で最も早くから、障害者が農園で働きやすくなるように支援を行う人材「農園芸ジョブトレーナー」の養成研修を実施。
- また、平成27年10月、県レベルで推進するために、「一般社団法人三重県障がい者就農促進協議会」を設立。これまで各地で実施してきた農園芸ジョブトレーナーの養成を中心としつつ、障害者による農業体験の実施、障害者が生産した農産物を用いた商品開発など、幅広い取組を展開。

取組の内容

- ◆ 名張市の園芸農家「株式会社緑生園」の代表取締役は、NPO法人日本園芸福祉普及協会の理事兼認定講師であり、長年、障害者による農園芸作業の支援について研究・実践してきた。
- ◆ 平成20年度、代表取締役が中心となり、障害者が農園で働きやすくなるように支援を行う人材「農園芸ジョブトレーナー」の養成プログラムを開発。現在は、座学講義、グループワーク、実地を組み合わせた2日間の研修を実施。
- ◆ 平成25年度からは、県の農業大学校において、就農希望者や障害福祉サービス事業所の職業指導員などを対象に、農福連携の講座を開講。
- ◆ 平成27年度からは、障害者による農業体験を実施し、体験の場に農園芸ジョブトレーナーを派遣。また、障害者が生産した農産物を用いた商品開発を支援するなど、県民への農福連携の認知度向上にも取り組む。

取組の効果

- ◆ 平成27年度から30年度にかけて、福祉関係者、農業者、行政職員など、延べ580人が養成研修を受講。県内外に農福連携の専門人材を確実に送り出し続けている。
- ◆ 障害者による農業体験の場に、育成した農園芸ジョブトレーナーを派遣することで、平成28年度と29年度には、4名の障害者が農業者に雇用されており、障害者の就農を着実に拡大。
- ◆ 伊賀市のイチゴ農業者は、農業大学校の講座で学び、福祉に関する知識を得たことから、障害者の受入れを円滑に開始したなど、効果が出ている。
- ◆ 協議会の支援により、農業高校や企業の発案を生かして、パン、ジャム、ドレッシング等を商品化。

ジョブトレーナー養成研修
（左：実地研修）
（右：グループワーク）



イチゴを高品質に生産し、県農業の担い手に

〔運営主体：社会福祉法人 まつさか福祉会〕〔事業所：多機能型事業所（就労継続支援B型・生活介護）「八重田ファーム」〕（三重県松阪市）

WEBサイト：<https://www.mukaiyaebell.or.jp>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 三重県松阪市にある「八重田ファーム」は、社会福祉法人まつさか福祉会が運営する多機能型事業所。現在は、知的障害・精神障害を持つ施設利用者17名が、ハウスでのイチゴ栽培を中心とした農作業を通年で実施。
- 平成30年度には、県内の障害福祉サービス事業所で初めて、イチゴ生産でASIA GAP認証を取得。イチゴを高品質に生産することで、県農業の担い手として期待されている。

取組の内容

- ◆ ハウス30aでイチゴを生産。また、約2haの露地でナバナ、金ゴマ、ニンニク、カボチャ等を生産。イチゴジャムへの加工にも取り組む。
- ◆ 離農した農業者から借り受けたイチゴハウスに、平成25年度「『農』のある暮らしづくり交付金」の補助を受け、高設栽培システムを組み込み、持続力がない障害者が作業しやすくしている。
- ◆ 害虫の被害を受けやすいイチゴでは、農薬散布が重要であるため、虫の写真などをハウス内に貼ることで、利用者に害虫について知ってもらおうとともに、品質管理への意識向上を図っている。

取組の効果

- ◆ 平成30年度には、県内の障害福祉サービス事業所で初めて、イチゴ生産でASIA GAP認証を取得。また、高品質なイチゴが販売先から評価され、平成30年には国際線機内食にも提供。
- ◆ イチゴ導入当時より利用者ができる作業が増え、今では、収穫作業にも従事。
- ◆ イチゴ栽培技術を信頼され、市内の離農した農業者から空きハウスや農地を借り、生産面積が増加。また、生産量の増加に伴い、県内大手スーパーと直接取引を開始。
- ◆ 安定的な経営により、就労継続支援B型事業の利用者の平均月額工賃は30,536円（平成29年度）と、三重県の平均14,915円を大幅に上回る。

ナバナの収穫作業



イチゴの収穫作業



国際線機内食に提供されたイチゴ



障害者の力で特産品であるイチジクとコンニャクの認知を拡大

②福祉完結型

〔運営主体：特定非営利活動法人 縁活〕〔事業所：就労継続支援B型事業所「おもや」〕（滋賀県栗東市）

WEBサイト：<https://enkatsu.or.jp/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 滋賀県栗東市の「おもや」は、平成23年、NPO法人縁活によって設立された就労継続支援B型事業所。現在は、知的障害者を中心とする施設利用者21名が、イチジクやコンニャク芋等の生産とコンニャク製造を通年で行う。
- 平成27年には、加工によって作物のロスを減らして収益を増やすべく、自然栽培で生産した野菜を提供するレストランを開設。平成30年には、農林水産省の交付金を活用して、コンニャク等の加工施設を整備して生産量の増大を図る。
- 平成29年には、福祉事業を営むNPO法人として認定農業者になるなど、市の特産品の栽培と製造の担い手として、期待が高まっている。

取組の内容

- ◆ 平成23年の開設当初は、栗東市が産地であるイチジクの生産が主だったが、その後に経営規模を拡大。現在は、耕作放棄地を再生した約2haの田畑で、イチジク（ハウス3棟）のほか、自然栽培による水稻とトマト等の野菜（ハウス2棟）、コンニャク芋を栽培。
- ◆ 野菜は12種類もの多品種を少量栽培することで、直売所での販売品目を増やせるほか、自家レストラン「おもやキッチン」で食材として提供。
- ◆ 障害者は、農作業全般、農産物の出荷・販売、レストランでの接客・盛り付け等の業務を行う。
- ◆ 平成30年度「農山漁村振興交付金」を活用して、特産品である「栗東産コンニャク」の製造等のための施設と休憩所を整備。

農産物加工施設



おもやキッチンの外観



取組の効果

- ◆ イチジクという単価の高い果実の栽培、コンニャク製造という加工まで行うこと、レストランでの野菜の提供等を組み合わせることで、平成30年度の売上は700万円にも上り、平成30年度の平均月額工賃は約28,000円と、滋賀県平均を大きく上回る。
- ◆ 加工施設の整備により、障害者の就労機会が増加。
- ◆ 鳥獣害を受けやすい中山間地域であるが、鳥獣はコンニャク芋の「えぐ味」を忌避することから、コンニャク芋の栽培により、鳥獣害対策にもつながっている。
- ◆ 平成29年には、認定農業者となり、市の特産品の栽培と製造の担い手として、期待が高まっている。

コンニャクの栽培



農林水産大臣の視察



京都の伝統野菜を障害者の手で生産

〔運営主体：社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会〕

（京都府京田辺市）

〔事業所：就労継続支援B型事業所「山城就労支援事業所『さんさん山城』」〕

WEBサイト：<http://www.kyoto-chogen.or.jp/communityplaza/sunsunyamashiro/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 京都府京田辺市にある「山城就労支援事業所『さんさん山城』」は、平成23年、社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会によって設立された就労継続支援B型事業所。現在は、聴覚障害者やひきこもり経験者等を中心とする32名が、京都の伝統野菜の生産と加工作業に通年で従事。
- 宇治茶の手摘みやエビイモの手掘りなど、障害者の手作業により、高品質な京都の伝統野菜を生産。
- 平成29年、京都府によって農福連携の推進拠点として指定。福祉施設によるモデル的な取組として、多くの視察を受け入れるなど、府内にとどまらず、全国各地や海外にまで、農福連携の普及啓発に取り組んでいる。

取組の内容

- ◆ 農地70aにおいて、京都の伝統野菜である宇治茶、エビイモ、京田辺ナス、トウガラシ等を栽培。特に、宇治茶栽培については、高齢化によって廃園予定だった茶園約20aを借り入れて実施。
- ◆ 障害者は、宇治茶の手摘みやエビイモの手掘りなど、手作業を中心として作業全般に従事。
- ◆ 収穫した農産物を加工して、濃茶大福やエビイモコロッキなどの加工品を製造。また、自社でコミュニティカフェを併設し、ワンコインランチを提供。

取組の効果

- ◆ 荒廃していた茶園の再生に成功。障害者の手作業により、高品質な「京の伝統野菜」の生産を維持することにつながっている。
- ◆ 技術の高さを信頼され、JAから、非常時の供給用として、エビイモ苗の育苗を依頼されている。
- ◆ 濃茶大福は、平成31年に京都のスイーツコンテストで最優秀賞を受賞、エビイモコロッキはAPECの会合でランチで提供するなど、付加価値の高いオリジナル商品がヒット。収益増と利用者の工賃向上を実現。
- ◆ ワンコインランチは連日完売。最大80人/日を超える来客で盛況となるなど、地域課題の解決に興味がある方々等にとって、貴重な交流の場に。
- ◆ 農福連携の取組を評価され、平成29年、京都府によって農福連携の推進拠点として指定。全国で講演を行うなど、普及啓発に取り組む。

手摘み収穫する宇治茶



京都エビイモの手掘り



エビイモコロッキ



規格外品に着目した農産加工による地域活性化

③連携型（うち福祉側の取組）

〔運営主体：社会福祉法人 よさのうみ福祉会〕
 〔事業所：多機能型事業所（就労継続支援B型他）「リフレかやの里」〕

（京都府与謝野町）

WEBサイト：<http://www.yosanoumi-fukushikai.or.jp/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 京都府与謝野町にある「リフレかやの里」は、社会福祉法人よさのうみ福祉会が運営する多機能型事業所。現在、農作業に取り組む就労継続支援B型事業所では、施設利用者16名が、野菜生産と農産加工に通年で取り組む。
- 自社で生産した野菜の規格外品に加え、外部の農業者から規格外品を買い付けたうえで、農産加工品を製造し、その加工品を農家に売り戻す活動を実施。このことが、農産物の付加価値を高め、障害者の工賃向上に貢献。また、食材廃棄の減少にもつながっている。

取組の内容

- ◆ 農地3.6haにおいて、九条ネギ、ジャガイモ、カボチャなどの野菜をハウス8棟と露地で栽培。
- ◆ 自社で生産した野菜の規格外品に加え、外部の農業者から規格外品を買い付け、漬物、ジュース、ジャム、ソースなどを製造して引き渡し、外部の農家が独自のブランドで販売。また、野菜や学校給食の原料としても安定的に販売。

取組の効果

- ◆ 規格外品を活用し、食材廃棄の減少を実現。
- ◆ **農産物加工品の売上高は、年間約2,000万円を計上。**また、利用者の平均月額工賃は最高約5万5千円と、京都府平均の約1万7千円を大きく上回る。
- ◆ 加工作業だけではまだ余力があるため、近隣農業者において、施設外就労として農作業も実施。ネギの定植や草刈りなどを通じ、障害者が農業者と触れ合うことで、地域農業の活性化にも貢献。

加工場の様子



未利用規格外の農産物



農産物直売所



農産物加工品



- 大阪府泉南市にあるハートランド株式会社は、文具やオフィス家具等の製造販売のコクヨグループの特例子会社であり、農地所有適格法人。現在は、知的障害者5名・精神障害者2名を含む従業員18名が、養液栽培によりサラダハウレンソウ等を通年で栽培。
- 24時間コンピュータ管理を導入して、ハウスの温湿度管理を行うとともに、定植用パネルの洗浄機・自動包装機を導入するなど、難しい判断については機械を上手に活用して効率化を図ることで、安定的な生産を実現。

取組の内容

- ◆ 水耕栽培ハウス4,100㎡において、サラダハウレンソウ等を養液栽培。ベッド数90床、年間16作。光・温度・二酸化炭素などを完全管理した「苗テラス」で育苗を行う。
- ◆ 障害者が担う農作業は、障害特性に応じて、播種・育苗・定植・計量・袋詰めなどに細分化。また、農産物の定植・計量には、近隣の障害福祉サービス事業所から、年間延べ約6,000人の施設外就労を受け入れるなど、労働力の外部委託も実施。
- ◆ 内外部の障害者を受け入れるために、作業工程ごとにイラストを用いたマニュアルを作成。
- ◆ 24時間コンピュータ管理を導入して、ハウスの温湿度管理を行うとともに、定植用パネルの洗浄機・自動包装機を導入。

水耕栽培



取組の効果

- ◆ 特例子会社として、障害者を水耕栽培で通年雇用。コクヨグループの法定雇用率を安定的に達成。
- ◆ 確かな技術と適切な作業分担により、年間50t、1日165kgという安定的な収量を確保。
- ◆ マニュアルにより、障害特性に応じた作業の効率化に成功。また、終業後に、作業貢献度に応じてシールを配布することで、障害者のモチベーションを維持。
- ◆ 難しい判断については、機械を上手に活用して効率化を図ることで、安定的な生産を実現。

定植作業の様子



苗テラス



農産物の包装作業など



生協出資の農業法人とA型事業所により、生協を軸とした取組を展開

〔株式会社 いずみエコロジーフーム〕（大阪府和泉市）

WEBサイト：<http://www.izumi.coop/coopsaien/#company>

④グループ内連携型（農業側から参入）

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 大阪府和泉市にある株式会社いずみエコロジーフームは、平成22年、大阪いずみ市民生活協同組合が設立した農地所有適格法人。平成24年に、就労継続支援A型事業所「ハートランド事業部」を設立して、障がい者を雇用。現在、知的障がい者を中心とする利用者約20名が、露地・ハウスの野菜栽培に通年で取り組む。
- 生協出資の農業法人であることから、生協が求める品質を満たす農産物は、生協が買い取ることで販路確保。また、生協店舗で出た食品残渣を堆肥化として使用するなど、生協を軸に生産・販売・消費の循環を生み出している。

取組の内容

- ◆ 和泉市内の圃場3.9haでは、ハウス50棟で小松菜やトマトを栽培を実施するほか、キュウリ・ゴーヤ・ホウレンソウ等の露地栽培も実施。障がい者は、エンジンの付いている農業機械で行う以外の作業はすべて実施。
- ◆ 年間通して収穫出来る小松菜は、1日約1,500袋出荷。特売時期は約2,500袋出荷。欠品は出来ないので多めに生産している。主に生協の宅配で販売。
- ◆ 食品残渣の堆肥化は生協の特例子会社が実施。
- ◆ 生協が求める品質を満たす農産物は、生協が買い取ることで販路を確保。また、自らA型事業所を設立することで、障がい者の人手も確保。

取組の効果

- ◆ 人手と販路を安定的に確保することで、利益が安定化。会社設立時に1haだった圃場は規模を5倍に拡大。農業での単純売上は、約5,000万円を実現。
- ◆ A型事業所として大阪府の最低賃金を支給しており、月額12万円程度。
- ◆ 高い農業技術を信頼され、平成23年に市から認定農業者として認定。
- ◆ 生協を軸に、障がい者の手による生産・販売・消費の循環を生み出している。

農場遠景



農作業の様子



農産物加工場



食品残渣由来の堆肥を使用した農産物



〔特定非営利活動法人 島根県障がい者就労事業振興センター他〕（島根県松江市）

WEBサイト：<http://shimane-noufuku.net/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 島根県は、平成24年10月から、県内の障害福祉サービス事業所の利用者の工賃向上を図る目的で、県の外郭団体である公益財団法人しまね農業振興公社に対し、「農福連携事業」を委託。平成27年度からは、委託先がNPO法人島根県障がい者就労事業振興センターに変更され、県とセンターが協力して、事業を継続。
- センターでは、配属されたコーディネーターが、農業者と障害福祉サービス事業所のマッチングを実施。また、実際に農作業を行う前に、事業所職員が模擬演習をするほか、農作業未経験の事業所が経験のある事業所から教わる合同演習などの仕組みを構築。
- 農福連携ポータルサイトを開設し、障害者による農作業の様子を動画で公開するなど、わかりやすく情報発信。

取組の内容

- ◆ 農福連携コーディネーター（県の普及指導員OB）2名を配置し、農作業受委託や商品開発などについて、農業者と障害福祉サービス事業所をマッチング。
- ◆ かつて県の研究圃場で行った実践調査によって得られた手法を生かし、実際に農作業を行う前に、事業所職員が農業者のほ場や事業所内で模擬演習をするほか、農作業未経験の事業所が経験のある事業所から教わる合同演習を実施。
- ◆ 農作業を行う事業所には、技術指導者である「農福連携サポーター」が、事業所職員へ農業技術を指導。
- ◆ 農福連携ポータルサイトを開設し、障害者による農作業の様子をyoutube動画で公開。

取組の効果

- ◆ 事業が浸透し、マッチング件数は、平成25年度の延べ3件から平成30年度には延べ39件へと増加。
- ◆ サポーターは、平成30年度には14名が登録され、延指導回数は14事業所で166回。
- ◆ 事業所が確かな技術を身につけた結果、花穂整形を受託したシャインマスカットが、県品評会で最高賞を受賞。また、障害者が、摘粒作業時にうどんこ病を発見し、速やかな防除につながるなど、農業経営面でも効果あり。
- ◆ 事業所の農業部門の売上総額は、平成29年度には、約2億3,000万円（売上の13.8%）まで拡大。
- ◆ 県では、平成28年度からは、県立農林大学校において、事業所職員向けに、農業技術の習得のための指導者養成コースも新設。

事業所内での模擬演習



事業所の合同演習



Youtube動画の公開



障害者との交流活動を契機として農福連携の取組が徐々に発展

〔有限会社 岡山県農商〕（岡山県岡山市）

WEBサイト：<http://kennosho.com/>

視察受入れ：可

④グループ内連携型（農業側から参入）

報道機関受入れ：可

- 岡山県岡山市にある有限会社岡山県農商は、農業法人化した平成11年に、知的障害者の雇用を開始。その後、同社は、平成20年にNPO法人岡山自立支援センターを設立。その後、就労継続支援A型事業所「ももっ子おかやま」など複数の障害福祉サービス事業所を相次いで開設。現在、自社施設の利用者約70名を施設外就労として受け入れ、青ネギ・トマトの栽培、加工等を通年で行う。
- 平成元年に農業を開始した当初は、家族経営で青ネギ栽培を行っていたが、平成9年に、近くの障害福祉サービス事業所の障害者や住民との交流を深めることを目的として、サツマイモの栽培と焼き芋会を開始。地域交流活動で障害者と接点を持ったことをきっかけとして、農福連携を開始し、その後のステップアップにつながった。

取組の内容

- ◆ 約10haの農地で青ネギとミニトマトを栽培するほか、カットネギ・乾燥ネギの加工も実施。学校給食用途でも販売。
- ◆ 平成9年から、サツマイモの栽培と焼き芋会を通じて、近隣の障害福祉サービス事業所の障害者や地域住民との交流を実施。
- ◆ 障害者は、自社ブランド「桃太郎ネギ」と「きびトマト」の収穫・調製作業、カットネギの製造を実施。
- ◆ 障害者が混乱しないよう、単純作業を多数創出。

青ねぎの洗浄ライン作業



カットねぎの袋詰め作業



ミニトマトの収穫作業



取組の効果

- ◆ 地域交流活動で障害者との接点をもち、農福連携を開始。まずは、障害者の直接雇用を開始した後、自社で障害福祉サービス事業所を相次いで設立することで障害者という働き手を確保するなど、取組がステップアップした。
- ◆ 働く障害者の数は、平成21年には10人だったが、平成31年には74人と、10年間で7倍以上に拡大。
- ◆ 加工・販売による6次産業化と障害者への適切な作業の割付けにより、平成28年の売上高は約1億6,500万円と、5年間で約1.5倍に増加。
- ◆ 特別支援学校からの職場実習を受け入れており、その際には、繰り返し根気強く伝えることで仕事を習得させ、正式雇用につなげている。

WEBサイト：<https://www.facebook.com/pages/category/Local-Business/%E3%81%8A%E3%81%8A%E3%82%82%E3%82%8A%E8%BE%B2%E5%9C%92-674397879248071/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 岡山県岡山市にある株式会社おおもり農園は、平成14年の就農以来、イチゴ栽培を実施している。平成23年には、NPO法人杜の家及び就労継続支援A型事業所「杜の家ファーム」を設立。現在、障害者約20名が施設外就労し、イチゴ栽培等を行う。
- イチゴは年間作業時間が特に長い作物であり、夫婦二人の作業では限界があったが、障害者5～6名の労働力を組み合わせることで、夫婦で1日300パックだった出荷量は、600パックと2倍へ増加。
- おおもり農園では、障害者の働きによって経営に余裕が生まれ、高齢で離農する農業者からハウスを引き継ぎ、経営面積は約35aまで増加。

取組の内容

- ◆ 就労継続支援A型事業所を設立して、事業所に対し、イチゴ栽培を安定的に委託。
- ◆ 水耕栽培施設も設け、ルッコラ、水菜、レタス等の栽培を実施。
- ◆ 現場の作業では、作業工程ごとの完成形を示した写真を多用し、障害者が視覚的に理解できるよう配慮。



取組の効果

- ◆ イチゴは、年間作業時間が特に長い作物であるが、自ら障害福祉サービス事業所を設立することで、障害者を安定的に確保できるようになり、作業負担が軽減。夫婦で1日300パックだった出荷量は、600パックと2倍へ増加。
- ◆ 経営に余裕が生まれた結果、離農した農業者からハウスを引き継ぎ、経営面積が約35aまで増加。
- ◆ 作業指示の見える化によって、異常発生時の問題点がわかり、指示が障害者に的確に伝わるようになった。
- ◆ イチゴ栽培の安定的な受託と水耕栽培の組合せにより、平成29年度の平均月額工賃は約8万9千円と、県内A型平均を1万円以上上回る。

イチゴのパック詰め



イチゴの選果



作業工程の視覚化



〔運営法人：社会福祉法人 E.G.F〕 〔事業所：就労継続支援B型事業所「のんきな農場」他〕（山口県萩市）

WEBサイト：<http://e-g-f.jp/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 山口県萩市にある社会福祉法人E.G.Fは、平成20年の設立以来、複数の障害福祉サービス事業所を運営している。現在、知的障害者を中心とする70名が、自社の畑のほか、集落営農組織への施設外就労により、通年で農作業やジャム製造等の6次産業化に取り組んでいる。
- 平成26年から、参加農業者120戸・水田面積111haにも及ぶ大規模な集落営農組織から農作業を受託することで、安定的に仕事を確保。また、作業量は毎年増加しており、地域農業における人手不足の解消に貢献。
- 障害者が共同生活するグループホームを設置し、他の施設で引き受けられづらい障害者を受入れ。夜間の生活リズムを確立するとともに、日中の農作業と合わさって、後天的な精神障害が回復した利用者もいる。

取組の内容

- ◆ 約5haの農地において、約40種類の野菜を生産するほか、栗園2haもある。また、ハウス50棟において、イチゴ、メロン、ホウレンソウ等も栽培。さらに、ジャム等の食品加工も実施。
- ◆ 平成26年から、隣接する集落営農組織「農事組合法人福の里」から作業受託開始。福の里は、参加農業者120戸・水田面積111haという大規模な組織。障害者は、田植え時の苗箱運び、肥料散布、草取り、収穫した稲のはさがけ、乾燥調製作業を実施。
- ◆ 平成28年には、阿武町に進出し、野菜のカット工場を建設。
- ◆ 障害者が共同生活するグループホーム14棟を設置し、障害者85名を受入れ。

取組の効果

- ◆ 自社圃場における農産物関連の販売額は、平成28年では2,300万円と高額。また、カット野菜の販売については、平成29年度には、販売量約30トで2,000万円を売り上げた。
- ◆ 大規模な集落営農組織から農作業を受託することで、安定的に仕事を確保。また、作業量は毎年増加しており、地域農業における人手不足の解消に貢献。
- ◆ 農業と加工の取組を評価され、平成26年には、六次産業化の総合化事業計画が認定されるとともに、平成27年には阿武町から認定農業者として認定。
- ◆ グループホームにおいて、生活リズムを確立することで、後天的な精神障害が回復した利用者もいる。

利用者



野菜カット工場



稲のはさがけ



- 香川県は、NPO法人香川県社会就労センター協議会に対し、共同受注窓口に係る業務を委託し、その中で、平成23年度から、特に、農業者と障害福祉サービス事業所のマッチングを開始。
- 農福連携の専任コーディネーターを1名配置。コーディネーターは、スケジュール調整や農作業委託料の交渉など、当事者に代わって多岐に渡る業務を実施。
- 全国でも珍しく、センター自体が、農業者 及び 障害福祉サービス事業所とそれぞれ契約を締結。両者が直接契約を締結しないことで、作業量や時期に応じて、複数の取組主体を柔軟にマッチングしている。
- 活用実績が極めて多く、県内の農福連携のマッチングシステムとして、大きな効果を上げている。

取組の内容

- ◆ 平成23年度から、農福連携の専任コーディネーター（現在は県内市役所OB）を配置して、農業者と障害福祉サービス事業所のマッチングを開始。これまで、ニンニクの種子割り・定植・マルチ芽出し・収穫、ネギ畑の除草、調製作業等を仲介。
- ◆ コーディネーターは、農業者と障害福祉サービス事業所に一斉にスケジュールを示して調整。
- ◆ 農作業をしてほしい農業者と、農作業をしたい障害福祉サービス事業所が、それぞれ、センターと契約を締結。

取組の効果

- ◆ 現在、センターには県内の障害福祉サービス事業所105事業所中91事業所が加盟し、このうち33事業所が農作業に参加。また、農作業への参加延べ事業所数は、平成27年度の190事業所から、平成30年度の227事業所と大幅増。さらに、同年度の延べ作業人数は約1万2,000人にも及んでおり、農福連携のマッチングシステムとして、大きな成果を上げている。
- ◆ 農業者と事業所が直接契約を締結しないため、作業量や時期に応じて、複数の取組主体を柔軟にマッチング。
- ◆ 必要な作業をできる限りマッチングしたことにより、参加した事業所の農作業工賃総額は、平成23年度の1,808千円から、平成30年度の13,749千円と、7年間で約7.6倍に増加した。

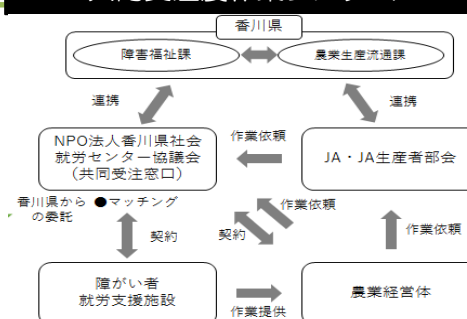
ニンニクの収穫



コーディネーターによるスケジュール提示

・農業者用				・施設用			
作業日	作業時間	作業内容	作業場所	作業日	作業時間	作業内容	作業場所
10月10日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月10日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市
10月11日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月11日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市
10月12日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月12日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市
10月13日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月13日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市
10月14日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月14日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市
10月15日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月15日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市
10月16日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月16日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市
10月17日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月17日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市
10月18日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月18日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市
10月19日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月19日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市
10月20日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月20日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市
10月21日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月21日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市
10月22日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月22日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市
10月23日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月23日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市
10月24日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月24日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市
10月25日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月25日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市
10月26日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月26日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市
10月27日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月27日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市
10月28日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月28日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市
10月29日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月29日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市
10月30日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月30日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市
10月31日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市	10月31日	9:00-11:00	ニンニク定植	JA高松市

共同受注農作業システム



〔運営法人：社会福祉法人 南高愛隣会〕〔事業所：就労継続支援B型事業所「ハローフレンズ」^他〕（長崎県雲仙市）

WEBサイト：<http://www.airinkai.or.jp/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 長崎県雲仙市にある社会福祉法人南高愛隣会は、離島を除く県全域で、50か所の障害福祉サービス事業所を運営する大規模法人。昭和52年の設立時にホルスタイン肉牛を肥育して以来、40年以上も農畜産業に取り組む。
- 現在、2つの障害福祉サービス事業所において、知的障害者を中心とする施設利用者52名が、和牛繁殖、地鶏の飼育、アスパラガスのハウス栽培等に通年で取り組んでいる。
- また、昭和52年の設立当初から、施設利用者は、施設外就労により、島原半島の農業者での農作業や種バレイショ選果施設での選果作業等も行ってきており、地元の農業分野における貴重な労働力となっている。

取組の内容

- ◆ 和牛素牛32頭を肥育し、年間21頭の子牛を出荷。また、地元企業から、県開発のブランド地鶏「長崎対馬地鶏」の雛の提供を受けて育成し、年間約6千羽を出荷。アスパラガスは、年間約6 tを出荷。
- ◆ 施設外就労として、雲仙市を中心とした農業者30戸でのダイコン収穫、タマネギの苗植え・収穫等を行うほか、種馬铃薯協会のバレイショ選果場での選果作業等を実施。
- ◆ シイタケ生産組合、レタス農業者、イチゴ農業者、畜産農業者に、利用者を年間最大180日派遣する職業訓練を実施。

2度の受賞歴を誇る和牛



ブランド地鶏の飼育



アスパラガスの収穫



取組の効果

- ◆ 40年以上取り組んできた農畜産技術を信頼され、農業者等からの農作業委託の依頼が年々増加し、現在は要望に応えられないほど。障害者が、地元の農業分野における貴重な働き手となっている。
- ◆ 障害者による丁寧な飼育の結果、和牛は、県内の和牛共進会で2度受賞するなど高評価。また、牛の発情・疾病を人工知能で検知してスマートフォンに通知するシステムも導入でき、省力化にも貢献。
- ◆ 地元JAから模範的アスパラ栽培の躍進賞を受賞するなど、高い栽培技術を確認。高い評価を得ることで職員と利用者のモチベーションが向上。
- ◆ 平成30年度における売上は、和牛子牛1,300万円、地鶏330万円、アスパラガス500万円、農作業受託800万円に上り、同年度の平均月額工賃は、2つの事業所平均で約2万5,000円と、農業関係事業のみで県内B型平均を上回る。

- 熊本県大津町にある株式会社なかせ農園は、サツマイモ栽培30年の農業者が前身。後継者の就農後、平成28年法人化。
- 高品質・高糖度で、食味を安定化させる栽培を目指している。収穫後に徹底した温湿度管理で熟成貯蔵し、甘みの強いサツマイモだけをブランド名「蔵出しベニーモ」で出荷。また、G-GAP認証を取得して、生産出荷体系の標準化や労働力の安全管理体制を構築に取り組み、障害者が働きやすい環境を創出。
- 平成28年の法人化と合わせ、新卒の障害者1名を雇用するとともに、町内の就労継続支援A型事業所に作業委託し、障害者の就労の場を提供。経営規模は、平成23年の4haから令和元年には9.3haに拡大。

取組の内容

- ◆ 農地9.3haでサツマイモを専作しており、青果のほか、干芋の製造・販売も実施。シンガポールへの輸出にも取り組む。
- ◆ 障害者の雇用は、特別支援学校高等部の学生を職場実習で受け入れたのがきっかけ。仕事の飲み込みが早く、収穫等の機械作業の補助も含め、多くの作業に対応。
- ◆ 事業所への主な委託作業は、苗床での苗切り、収穫したサツマイモのつる切り、機械を用いた選別作業など。
- ◆ 苗切り作業は、イモの苗を切って、コンテナに入れる作業。この作業を苗を切るだけの人、切った苗をまとめてコンテナに入れる人に作業を分けている。

水はけのよい火山灰土のほ場



貯蔵倉庫の内部



取組の効果

- ◆ サツマイモ栽培には人手を要するため、家族のみでは経営規模を拡大できず、健常者の雇用も人手不足で難しい中、障害者の労働力があって可能となり、平成23年の4haから倍以上に拡大。
- ◆ 熊本県では、特別支援学校の高等部から一般就労することは多くないため、雇用されたことを誇りに思っており、意欲的に働いている。
- ◆ 事業所への委託により、障害者4名が年間6～8ヶ月程度作業に従事。多くの障害者に長期間、就労の場を提供。
- ◆ 町内の若手農業者と共同で、サツマイモをお菓子用原料として町内の菓子メーカーにも販売するなど、新たな取組にもつながっている。

芋の重さによる選別作業



蔵出しベニーモ



JA選果場における作業を中心に、県全域で共同受注事業を展開

中間支援の取組

〔大分県障害福祉サービス事業所等共同受注センター 農園芸部会〕（大分県別府市）

WEBサイト：<https://oitakyojyu.net/nouen.html>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 大分県は、平成25年度から、作業の人手が足りないJA等と障害福祉サービス事業所を結びつける「農作業共同受注事業」を実施。
- 県の障害福祉課は、JAの選果場における出荷調製作業を中心として作業の掘り起こしを行い、県から共同受注窓口の事務局を委託された社会福祉法人太陽の家は、そのような作業ができる障害福祉サービス事業所を県に紹介。
- 事業が定着化したことから、平成29年度頃からは、センターが介在せずに、契約当事者だけでの契約締結が進みつつあり、現在は、センターの会員101事業所のうち約40事業所が、農園芸部会員として作業を受託。

取組の内容

- ◆ 県障害福祉課に配置されたコーディネーター3名が作業を掘り起こす。太陽の家は、事業所への意向調査等を踏まえて受託事業所を選定し、県に紹介。
- ◆ 取組当初は、県とJA等で障害者に適した作業を検討し、サツマイモの出荷調整、加工用力ボスの収穫、ミカンのパック詰め等15作業を選定。
- ◆ 現在、JA東部・豊肥・南部の各事業部に対応して、近隣の事業所等で構成する4グループ（8～10事業所で構成）が、各JAの選果場等で作業。
- ◆ 作業現場へは、各事業所は職員1名と施設利用者4名程度のユニットで出向く。報酬は、処理量等に応じた出来高払い（一部時給払い）であり、単価は事務局が調整。＊例：甘藷の出荷調整は10円/kg

ハウスミカンパック詰め作業



加工用力ボス収穫



取組の効果

- ◆ 単独の事業所では対応できない大量の作業発注についても、事業所間の融通により対応。作業に従事した障害者数は、平成25年度の延べ約4千人から、平成29年度には延べ約1万1千人に増加。柑橘、ネギ、サツマイモなどの産地の維持に貢献。
- ◆ 選果場等の作業を複数の事業所で受託することで、毎日の対応が困難な事業所も参加しやすくなり、また、作業予定日に利用者が参加困難となった際も、他の事業所によるフォローが可能。
- ◆ JAとの信頼が醸成され、休憩室の確保等を実現。また、ミカン包装袋等の改善を提案し、作業性が向上。

甘藷の出荷調整作業



二ろの出荷調整作業



- 鹿児島県南さつま市にある株式会社南風ベジファームは、平成24年に設立された農業生産法人。代表は、漬物製造業として起業後、原料生産のために農業を開始。赤シソを中心とした野菜を栽培する。
- 人手不足に対応するため、平成27年、多機能型事業所「南風i（アイ）」を開設。同施設の利用者45名が、農作業や加工作業に従事。また、近隣のサツマイモ農業者から、芋の苗植え作業等を受託。
- 平成30年に惣菜製造加工場を新設。県内スーパー向けに、ポテトサラダ、切り干し大根等の製造・販売、原料のジャガイモ、大根等の生産を推進。さらに、令和元年にカフェを設置し、高齢者への食事の提供等に着手予定。

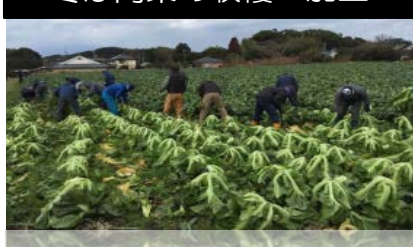
取組の内容

- ◆ 約6haの農地で赤シソ、高菜、ジャガイモ、ダイコン等を生産。生産した農産物は、自社で惣菜等に加工・販売。高菜の一部は、外部の漬物業者へも販売。
- ◆ 芋の苗植え作業は、機械化が難しく人手を要するため、人手の確保が困難になった近隣農業者から、約10ha分を受託し、障害者等の10名が作業。
- ◆ 他方、自社で生産する高菜は、収穫作業の機械化が難しく、人手を要するが、収穫以外の作業は機械化が可能のため、芋の苗植えを受託している近隣農業者に約5ha分の作業を委託。

夏は赤シソ栽培が中心



冬は高菜の収穫・加工



取組の効果

- ◆ 漬物等の加工技術を有し、販路が確保されていることもあり、着実に野菜生産、加工事業の規模拡大が図られ、利用者数は、平成27年の18名から平成30年には45名に大幅に拡大。
- ◆ 豊富な利用者の労働力を活かして、近隣農業者の間で芋苗植付け作業の受託、高菜栽培の委託に取り組み、地域農業者と相互の協力体制を構築。地域農業の維持発展に大きく貢献。
- ◆ 芋の苗植え作業の委託料は、作業面積による成果制。農業者からは、金額を予想しやすく、安心して委託できると好評。

芋の苗植え



空き工場を改修し惣菜加工に着手



〔運営法人：社会福祉法人 白鳩会〕

（鹿児島県南大隅町）

〔事業所：多機能型事業所（就労継続支援A型・B型等）「花の木ファーム」他〕

WEBサイト：<http://shirahatokai.jp/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 鹿児島県南大隅町にある社会福祉法人白鳩会は、昭和47年の設立以来、現在は約100名の知的障害者を中心とした施設利用者とともに、野菜の生産、お茶の栽培や養豚などを行っている。
- 昭和53年には、より効率的で大規模な農業経営を行うために、別法人として農事組合法人 根占生産組合を設立。社会福祉法人が運営する障害福祉サービス事業所から、農事組合法人へ施設外就労する形をとる。
- 耕作放棄地や離農地を引き受けることで、経営耕地面積は約45haと広大であり、地域農業の維持に貢献。
- 施設利用者の中には、触法障害者21名を含み、再犯防止にも貢献。

取組の内容

- ◆ 県内3か所の農場で、ニンニクやイチゴ等の生産、サラダハウレンソウの水耕栽培、茶の栽培、養豚（子豚約600頭の肥育）を行う。茶の栽培面積は約7haと県内有数の規模となっている。
- ◆ 養豚に従事する利用者数が最も多く16名（平成29年度）。利用者は、豚舎清掃にとどまらず、交配・分娩補助、給餌等も行っている。長い経験により高い技術を誇る利用者もいる。
- ◆ 加工施設とレストランも併設しており、農畜産物をソーセージや餃子等に加工して販売・提供。
- ◆ 触法障害者が21名就労する。

お茶の栽培管理



子豚の搬出



ソーセージの結束



取組の効果

- ◆ 長い農業の経験をもとに、適切な生産工程を確立し、平成27年に有機JAS、平成28年に鹿児島県K-GAP、令和元年にASIAGAPを相次いで取得。
- ◆ 農業技術を信頼されて、地域の農地を引き受け続けてきた結果、当初は5haだった経営耕地面積は、約45haまで拡大。地域農業の維持に貢献。
- ◆ 規模拡大に伴い、平成30年度における売上は約3億9千万円と開始当初の8倍に増加。平成29年度における平均月額賃金/工賃は、A型約9万円、B型約2万円と県内平均を上回る。
- ◆ 触法障害者を多く受入れ、就労や居住の場を提供することで、再犯防止に貢献。

農場全景



- 沖縄県南城市にある株式会社みやぎ農園は、昭和63年から続く養鶏・野菜農家。平成29年から、市内の就労継続支援A型事業所から、精神障害を持つ利用者を中心とした6名程度を施設外就労として受け入れ、卵のパック詰めと農産物の袋詰めの作業を担っている。
- 障害者が、作業の一部を分担することで、人手不足を解消。
- 農林水産省の「農の雇用事業」を活用して新規就農者を育成・独立させた実績があるなど、多様な人材の受入れに積極的。また、社内にはGAP審査員とJGAP指導員が在籍し、障害者も作業がしやすくなるような生産工程の管理に力を入れている。

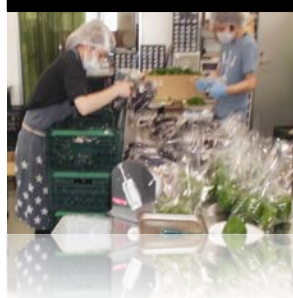
取組の内容

- ◆ 11,000羽の平飼養鶏（約30a）とショウガ、パパイア等の露地栽培（約85a）、約80戸の契約農業者から出荷されるピーマン等の農産物販売、マヨネーズ等の加工品の販売も実施。
- ◆ 障害者は、卵のパック詰めと農産物の袋詰めにそれぞれ3名ずつ行っており、週5日の連日勤務。
- ◆ 音に過敏な障害者を、喧騒な卵の集荷場から農産物の集荷場へ配置換えするなど、適材適所での作業となるよう配慮。
- ◆ 日本生産者GAP協会のGAP審査員2名、JGAP指導員1名が在籍。

取組の効果

- ◆ 23名の従業員だけでは人手が不足していたが、障害者が作業を担うことで、人手不足が解消。
- ◆ 健常者社員が、養鶏に集中できるようになり、高い技術を維持。平成31年1月からは、JICAを通じてブータンへ養鶏技術に移転する取組を開始。また、台湾へマヨネーズ等の加工品の輸出も開始するなど、取組を拡大中。
- ◆ GAPに力を入れており、障害者も作業がしやすくなる生産工程の管理を重視。
- ◆ 今後は、ほ場での障害者の活用を検討。また、障害者への技術指導が可能となるよう、休憩所やトイレを完備した「トレーニングファーム」の整備を構想中。

農産物袋詰め作業



卵パック詰め作業



出荷される卵



出荷される農産物



野菜の水耕栽培を軸とした障害者の安定就労を実現

②福祉完結型

〔運営主体：社会福祉法人 みやこ福祉会〕〔事業所：就労継続支援A型事業所「野菜ランドみやこ」^他〕（沖縄県宮古島市）

WEBサイト：<http://www.miyakofukushikai.jp/yasailand.html>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 沖縄県宮古島市にある「野菜ランドみやこ」は、平成22年から社会福祉法人みやこ福祉会によって運営される就労継続支援A型事業所。現在、約20名の障害者が、葉物野菜の水耕栽培を通年で行っている。
- 平成30年度には、育苗施設（苗テラス）のLED照明の取替えに、農林水産省の交付金を活用。また、ハウスや附属施設の整備には、厚生労働省の障害者施設向けの補助事業（*）を活用。
- 水耕栽培による葉物野菜は、宮古島の中で通年で入手できる貴重な野菜であるため、注文に生産が追いつかないほど人気であり、障害者の安定的な就労を実現。

* 社会福祉施設整備事業用、重度障害者多数雇用事業所施設設置等助成金

取組の内容

- ◆ 鉄骨ビニールハウス約30aにおいて、リーフレタス、ルッコラ、水菜などを水耕栽培。播種から収穫までは約1ヶ月であり、年間12作。
- ◆ 障害者は、9時半から16時半まで、は種、定植・収穫、袋詰め等の作業を行う。
- ◆ 知的障害者が視覚的に理解できるよう、作業工程ごとに写真等のパネルを活用。
- ◆ 生産された野菜のうち、規格外のものは、平成30年に設立したグループ内の就労継続支援B型事業所「ビュッフェレストラン太平山」で提供。

取組の効果

- ◆ 水耕栽培による葉物野菜は、宮古島内で通年で入手できる貴重な野菜として、注文に生産が追いつかないほど人気であり、年間を通して作業があることで、障害者の安定的な就労を実現。
- ◆ 野菜ランドみやこが軌道に乗ったことで、平成27年度に、新たに就労継続支援B型事業所「トマトランドみやこ」を開設し、トマト栽培へ取組を拡大。
- ◆ 新たな地域交流の拠点として開設したレストランでも、障害者の雇用を拡大。
- ◆ 水耕栽培による農福連携の先進地として、JICA等から視察を受入れ。

水耕栽培ハウスの様子



苗テラスの様子



選別作業の様子



レストランの様子



JICA視察受入れの様子

